

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書				氏名	玉島 健二											
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>①「初年次セミナー」の「全体的な満足度」が栄養士コース4. 2、ビジネス・医療秘書コース4. 5、幼児教育学科4. 2と、令和3年度を0. 3ポイント上回った。また、「初年次セミナー」の「SDGsを考える」回で、学生4～5名で班構成したグル ー プワーク (アクティブラーニング) を初めて導入し、一方的に聴くだけの授業から脱却できた。</p> <p>②初めての開講となった「長崎観光概論」は、受講者が3名であったが、「全体的な満足度」は4. 7と高い評価を得た。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>①「初年次セミナー」 前年度とほぼ同様の授業構成とするが、一部変更する。具体的には、「学科横断的内容」を4回から3回に減らし、「18歳成人問題」、「長崎と平和」を新規に加える。</p> <p>②「長崎観光概論」 受講者が7名に増えたので、3名と4名の2つの班に分け、それぞれに「長崎さるく体験コース」を独自に考えさせ、実際に歩いて体験する授業構成とする。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>①「初年次セミナー」 15回の実施分のうち、変更内容は、上記のとおりとする。なお、新シラバスにより実施するが、成績評価のルーブリックを示し、それに基づく評価を行う。</p> <p>②「長崎観光概論」 班別の事前の情報収集に5回 (うち2回は学外現地調査)、その後、発表用資料作成、発表会、発表会終了後、正式な「自分たちが考えた長崎さるくコース」を体験し、最終回は振り返りとする。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>①「初年次セミナー」 当初予定していた、「SDGsを学ぶ」回での班別学習は外部講師の意向により、個人の宿題として問題が配布され、後日提出となった。従って、班別学習 (アクティブラーニング) は実施できなかった。成績評価については、ルーブリックに基づき 厳格に行うことができた。その影響からか、以前よりも厳しめの成績となった。</p> <p>②「長崎観光概論」 当初の予定通りに「自分たちが考えた長崎さるくコース」を各種の情報をもとに作成したことにより、意欲的な取り組みが見られた。</p>																
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
長崎観光概論	22L	選択	7	77.4	1	14.3%	1	14.3%	5	71.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
初年次セミナー	23S	必修	33	73.0	2	6.1%	5	15.2%	15	45.5%	11	33.3%	0	0.0%	0	0.0%
初年次セミナー	23L	必修	19	76.5	3	15.8%	1	5.3%	14	73.7%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%
初年次セミナー	23Y	必修	68	74.1	3	4.2%	21	29.2%	34	47.2%	12	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度									
長崎観光概論	22L	4.9	4.7	5.0	4.9	77.1分	4.9									
初年次セミナー	23S	4.4	4.3	4.4	4.4	35.3分	4.4									
初年次セミナー	23L	4.3	4.2	4.6	4.4	28.5分	4.0									
初年次セミナー	23Y	4.3	4.3	4.6	4.5	18.1分	4.1									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																

5. アクティブ・ラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

①アクティブラーニング

「初年次セミナー」では外部講師の意向により、結果的に班別学習（アクティブラーニング）は実施できなかった。「長崎観光概論」は15回のほとんどがアクティブラーニング形式の授業となった。

②オフィスアワー

オフィスアワーと呼べるかどうかはわからないが、「初年次セミナー」では課題未提出者や欠席がちな学生に対しては注意喚起を込めて、激励した。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

令和5年度をもって退職となる。

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書					氏名		太田 智子									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)														基礎学力と専門知識および技術の向上にむけて支援する。		
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)														実習内容の記録を行うとともに、文章力や客観性を高めるために調理学実習のレポート様式を変更した。併せてレポートの書き方の例を示した。		
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に														まずレポートの未提出が多く、内容以前にレポートを期限までに提出するという指導が必要であった。内容については、個人差が大きかったように思われる。しっかり取り組んでいる学生も増えてきたが、誤字や内容の不備がみられる学生も少なくないため、全体的な底上げを行う必要がある。		
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講	22S	選択	23	63.3	2	8.7%	3	13.0%	2	8.7%	11	47.8%	4	17.4%	1	4.3%
食品加工学実習	22S	選択	9	82.0	3	33.3%	4	44.4%	1	11.1%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習	22S	選択	23	83.0	6	26.1%	9	39.1%	7	30.4%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅱ	22S	選択	23	78.4	4	17.4%	8	34.8%	6	26.1%	5	21.7%	0	0.0%	0	0.0%
調理学実習Ⅲ	22S	選択	24	75.7	3	12.5%	6	25.0%	9	37.5%	6	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22S	必修	6	91.3	6	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
調理学実習Ⅱ	23S	選択	33	73.2	5	15.2%	3	9.1%	11	33.3%	13	39.4%	1	3.0%	0	0.0%
プレゼミナール	23S	必修	33	91.2	24	72.7%	7	21.2%	2	6.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
栄養士スキルアップ特講	22S	*	*	*	*	*	*									
食品加工学実習	22S	4.4	4.9	4.9	4.4	76.7分	4.7									
学外実習総合演習	22S	*	*	*	*	*	*									
学外実習Ⅱ	22S	*	*	*	*	*	*									
調理学実習Ⅲ	22S	3.8	3.3	4.1	3.9	88.8分	3.5									
ゼミナール	22S	3.5	3.5	4.0	4.0	50.0分	3.7									
調理学実習Ⅱ	23S	4.5	4.3	4.4	4.4	90.0分	4.4									
プレゼミナール	23S	*	*	*	*	*	*									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

特になし

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

基礎学力と専門知識および技術の向上にむけて支援する。
スモールステップによって学生が学習に対して自信が持てるような授業を行う。

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	太田 美代
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

○「給食経営管理論」は、リアクションペーパーを活用することで、個別の対応を丁寧にすることができた。学生の満足度も前年度4.0から4.5に上がった。今後は、記述内容が浅い学生に対する働きかけを工夫したい。
 ○「栄養教育指導論実習Ⅱ」は、C評価者が多い。筆記試験の結果が良くなかったため、次年度は試験対策も考慮する。学内実習では、栄養指導実習を自信をもって実施することができた。
 ○「給食経営管理論実習Ⅱ」の履修者の人数は少なかったが、意欲のある学生がほとんどだったため、十分な成果を挙げるることができた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

○専門職としての基礎的な力を養うため、栄養士実力認定試験の短大平均を上回る者60%以上、及びA認定50%以上を目指す。
 ○1年生のスタートアップセミナーを定期開催して基礎学力の充実を図る。2年生も「チャレンジタイム」として定期的に過去問に当たり調べ学習を勧めるとともにeラーニングシステムを導入し活用を図る。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

○1年生の授業ではスライドとワークシートを活用し、まとめて過去問にもあわせて知識の定着を図る。またリアクションペーパーを使って個別対応を行い、学習への意欲を喚起する。
 ○2年生は「チャレンジタイム」での修得度別グループ学習に加え、eラーニングを実施するための環境整備を行い、主体的な学習を促す。学力に関して心配な学生も多いので、可能な限り個別にきめ細かな対応で支援する。
 ○実習演習の授業においては、グループや個人での自己評価、グループ同士での相互評価を行う場面を設定し、認め、励ますことを通して学びに向かう主体的な態度を育成する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

○栄養士実力認定試験の結果、A判定43.5%、B判定39.1%、C判定17.4%で、A判定は目標の50%に及ばなかった。短大平均を上回った者は43.5%であった。「給食管理論」においては得点率53.4%で目標の60%には6.6ポイント届かなかった。
 ○栄養教育指導論実習ⅠでC評価者が多かったが、授業評価の自由記述では、本授業の意義を理解して取り組んだことが窺える内容の感想が記されていたので、学生なりに課題に向き合った結果だと受け止めている。
 ○eラーニングによる反復学習を習慣化した学生が少なかったことが、思うように成績が伸びなかった原因の一つではないかと考える。次年度は、授業や小テストでの活用を図りたい。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講	22S	選択	23	63.3	2	8.7%	3	13.0%	2	8.7%	11	47.8%	4	17.4%	1	4.3%
食品加工学実習	22S	選択	9	82.0	3	33.3%	4	44.4%	1	11.1%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習	22S	選択	23	83.0	6	26.1%	9	39.1%	7	30.4%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅱ	22S	選択	23	78.4	4	17.4%	8	34.8%	6	26.1%	5	21.7%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22S	必修	6	87.2	3	50.0%	2	33.3%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
応用栄養学実習	23S	選択	33	72.8	0	0.0%	3	9.1%	22	66.7%	8	24.2%	0	0.0%	0	0.0%
栄養教育指導論実習Ⅰ	23S	選択	33	71.5	2	6.1%	6	18.2%	8	24.2%	17	51.5%	0	0.0%	0	0.0%
給食経営管理論実習Ⅰ	23S	選択	33	76.3	1	3.0%	12	36.4%	13	39.4%	7	21.2%	0	0.0%	0	0.0%
ブレゼミナール	23S	必修	33	91.2	24	72.7%	7	21.2%	2	6.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
栄養士スキルアップ特講	22S	*	*	*	*	*	*
食品加工学実習	22S	4.4	4.9	4.9	4.4	76.7分	4.7
学外実習総合演習	22S	*	*	*	*	*	*
学外実習Ⅱ	22S	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22S	4.0	4.5	4.7	4.7	70.0分	4.5
応用栄養学実習	23S	4.5	4.5	4.4	4.3	69.7分	4.4
栄養教育指導論実習Ⅰ	23S	4.4	4.3	4.4	4.3	95.3分	4.4
給食経営管理論実習Ⅰ	23S	4.5	4.4	4.5	4.4	68.8分	4.4
プレゼミナール	23S	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・実習系の科目については、計画的に実施することができた。講義を中心とする「給食経営管理論」についても「大量調理施設衛生管理マニュアル」に関する部分で一部学生に説明させる場面を作り、主体的に学習に臨む姿勢を促した。
- ・実習の最後にKJ法を応用して、すべての学生が自ら「何を学んだか」「どんなことが身についたか」を考える機会を設けた。グループでまとめて発表することで、反省点や授業の成果を共有することができた。
- ・定期試験で苦慮する学生には、個別に指導対応を行った。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ルーブリックの評価項目と評価基準の整合性を図る。
- KENSを授業や小テストで活用し、リアクションペーパーで個々の学生の理解度を把握しながら授業を行う。
- それぞれの授業で、「場の設定」「自己決定」「自己評価」「個に応じた指導」の工夫を重ねていく。

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	桑原 真美
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

令和4年度は公衆栄養学の成績が全体的に低かったため、授業の方法を見直す。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

公衆栄養学の成績向上 (C評価の学生を全体の3割以下) を目標とする。公衆栄養学においてe-ラーニングシステムを授業に導入し、その効果を検証する。
 食品衛生学実験においては、導入や実験方法の説明をより丁寧に行い学生の理解度向上(授業評価アンケートにおける学生の理解度4.5以上)に努める。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

公衆栄養学においては、毎回の授業の冒頭にe-ラーニングシステム WebアプリケーションKENSにて前回の復習問題を実施した。学生の解答データは教員側がリアルタイムで把握できるため、正解率の低かった問題についてはその場で解説を行った。また、復習問題の成績はアプリ内に蓄積されるため、学生は自身の理解度を把握することができる。これらの機能を利用して、学生の成績向上へ繋げる取り組みを実施した。
 食品衛生学実験においては、実験の目的・実験方法を板書および実演にて説明し、学生には実験ノートを作り、実験の内容や結果を整理できるよう指示した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
--

公衆栄養学は、成績評価においてC評価の学生が25%となり昨年度の60%から大幅に減少した。授業アンケートの自由記述欄にKENSが学習の役に立ったとの意見も多数あり、一定の効果が得られたものと推測できる。
 食品衛生学実験は、授業評価アンケートにおける学生の理解度が4.3であり、目標の4.5以上には届かなかった。学生に実験ノートを作らせたが、記載内容が不十分であり、実験内容の整理ができていないことも要因であると考えられる。また、同実験において不合格者が1名となった。この学生はレポートの未提出が多数あったため合格点に届かなかった。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講	22S	選択	23	63.3	2	8.7%	3	13.0%	2	8.7%	11	47.8%	4	17.4%	1	4.3%
食品加工学実習	22S	選択	9	82.0	3	33.3%	4	44.4%	1	11.1%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%
公衆栄養学	22S	必修	24	78.5	4	16.7%	7	29.2%	7	29.2%	6	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習	22S	選択	23	83.0	6	26.1%	9	39.1%	7	30.4%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅱ	22S	選択	23	78.4	4	17.4%	8	34.8%	6	26.1%	5	21.7%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22S	必修	7	87.9	5	71.4%	1	14.3%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
食品衛生学実験	23S	選択	33	74.1	2	6.1%	9	27.3%	12	36.4%	9	27.3%	1	3.0%	0	0.0%
栄養学Ⅱ(ライフステージと栄養)	23S	選択	33	79.5	7	21.2%	8	24.2%	13	39.4%	5	15.2%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	23S	必修	33	91.2	24	72.7%	7	21.2%	2	6.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
栄養士スキルアップ特講	22S	*	*	*	*	*	*
食品加工学実習	22S	4.4	4.9	4.9	4.4	76.7分	4.7
公衆栄養学	22S	4.5	4.8	4.5	4.4	73.8分	4.8
学外実習総合演習	22S	*	*	*	*	*	*
学外実習Ⅱ	22S	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22S	4.9	4.9	4.7	4.7	68.6分	4.9
食品衛生学実験	23S	4.6	4.6	4.6	4.3	121.8分	4.5
栄養学Ⅱ（ライフステージと栄養）	23S	4.6	4.7	4.4	4.2	60.0分	4.6
プレゼミナール	23S	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

ゼミナールにおいて、チャレンジタイムと称した勉強会を実施した。その他実験・実習科目においてはアクティブラーニングに該当する。
オフィスアワーは実施時間を設けたが、時間外での利用が多数であった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次年度はKENSを1年生の開講科目でも利用できるように調整する。
食品衛生学実験においては、実験ノートの作り方の指導を徹底し学生の理解度向上に努める。また、提出物の期限内提出の指導を徹底する。

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	古賀 克彦
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

- ① アクティブラーニングの導入 (導入可能な科目について)。
- ② 栄養士実力認定試験成績向上 (臨床栄養学、栄養教育指導論講義)。
- ③ 学外実習の評価向上。
- ④ 卒業研究の満足度向上。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ① アクティブラーニングの導入 (すべての科目において)。
- ② 栄養士実力認定試験成績向上 (臨床栄養学、栄養教育指導論講義)。
- ③ 学外実習の評価向上。
- ④ 卒業研究の満足度向上。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ① 講義科目においてアクティブラーニングの導入は難しいので、問題を自主的に解かせる形式を導入した。
- ② 栄養士実力認定試験の問題を解かせるだけでは答えだけを暗記する学生がいるため、各選択肢の問題文を○×問題として解かせた。
- ③ 学外実習総合演習での指導の強化。
- ④ 各学生に応じた対応や面談の実施。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
--

- ① 自主的に問題を解く学生と、全く解かない学生に分かれた。
- ② 栄養士実力認定試験の問題の各選択肢を○×問題として解かせる訓練をしたが、全ての学生に効果があるとは言えなかった。栄養士実力認定試験の結果は臨床栄養学は昨年より悪化、臨床栄養学は昨年より改善した。
- ③ 今年度の学外実習は、一部の学生を除き学外実習Ⅰ・Ⅱとも実施された。実習先からの評価は昨年より改善したが、複数の実習先から献立作成能力の低さを指摘された。
- ④ 卒業研究の満足度は4.7点 (5点満点) と高い結果となった。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養士スキルアップ特講	22S	選択	23	63.3	2	8.7%	3	13.0%	2	8.7%	11	47.8%	4	17.4%	1	4.3%
食品加工学実習	22S	選択	9	82.0	3	33.3%	4	44.4%	1	11.1%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習総合演習	22S	選択	23	83.0	6	26.1%	9	39.1%	7	30.4%	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
学外実習Ⅱ	22S	選択	23	78.4	4	17.4%	8	34.8%	6	26.1%	5	21.7%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22S	必修	5	90.0	4	80.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
臨床栄養学Ⅰ (病態の理論)	23S	必修	33	66.1	3	8.8%	2	5.9%	8	23.5%	20	58.8%	1	2.9%	0	0.0%
栄養教育指導論Ⅱ	23S	選択	33	77.5	6	17.6%	12	35.3%	12	35.3%	4	11.8%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	23S	必修	33	91.2	24	72.7%	7	21.2%	2	6.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
栄養士スキルアップ特講	22S	*	*	*	*	*	*
食品加工学実習	22S	4.4	4.9	4.9	4.4	76.7分	4.7
学外実習総合演習	22S	*	*	*	*	*	*
学外実習Ⅱ	22S	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22S	4.6	4.8	4.4	4.4	84.0分	4.4
臨床栄養学Ⅰ（病態の理論）	23S	4.4	4.4	4.3	4.2	48.9分	4.4
栄養教育指導論Ⅱ	23S	4.5	4.5	4.4	4.3	38.6分	4.5
プレゼミナール	23S	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングに関しては、講義科目では自主的に問題を解かせる形で実施したが、熱心に取り組む学生は成績上位の一部の学生だけだった。
 またオフィスアワーに関しては基本的に開いている時間であればいつでも訪問してよい形式で実施した。
 質問に関しては2年生は学外実習（実習先からの課題対応含む）や定期試験についての相談が多く、1年生に関しては献立作成や定期試験についての相談が多かった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ① 講義科目におけるアクティブラーニングの導入方法の検討
- ② 栄養士実力認定試験成績向上（臨床栄養学、栄養教育指導論講義）。
- ③ 学外実習の評価向上。
- ④ 卒業研究の満足度向上。

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書					氏名		江頭 万里子									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
秘書実務1では、教員の教え方は4.9、全体的な満足度4.8と学生の評価が高く、授業外学習時間も昨年比34分アップしていた。反転授業の成果と思われる。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) 秘書実務1では、授業内容の定着と学生の満足度を維持するため、授業法を改善する。																
(2) キャリアアップセミナー2では、学生が主体的な学びを行えるよう支援する。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
(1) 反転授業の単元を昨年の3単元から6単元へ、増やして実施した。																
(2) 授業時に目標、実施計画、実践の振り返りを行わせ、主体的な学びに繋がるよう支援した。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
(1) 秘書実務1では、授業評価アンケートの結果が、全ての項目において昨年度より下がっていた。昨年度は88.2%が、1年生終了時点で秘書検定2級に合格しており、試験勉強を通して授業内容の基礎知識を有していたと考えられることから、事前学習用の教材をよく理解することができ、反転授業が有効であった可能性がある。今年度は、35%が、秘書検定を受験しなかったことで事前学習用の教材の理解が難しかったのかもしれない。今後は、学生の状況を見て、反転授業を行う単元選定する必要がある。																
(2) 担当した2名の学生は、検定の上位級合格という目標を達成することができた。																
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
キャリアアップセミナー2	22L	必修	17	85.6	10	58.8%	2	11.8%	3	17.6%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%
秘書実務1	23L	必修	19	85.2	5	26.3%	11	57.9%	3	15.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー1	23L	必修	19	81.5	9	47.4%	4	21.1%	4	21.1%	2	10.5%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
キャリアアップセミナー2	22L	*	*	*	*	*	*									
秘書実務1	23L	4.4	4.3	4.4	4.1	69.5分	4.2									
キャリアアップセミナー1	23L	*	*	*	*	*	*									
フィールドワーク	23L	*	*	*	*	*	*									
インターンシップ1	23L	*	*	*	*	*	*									
インターンシップ2	23L	*	*	*	*	*	*									
ゼミナール	23L	*	*	*	*	*	*									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

必要に応じて、ペアワーク、ロールプレイング、反転授業等のアクティブラーニングを行った。

オフィスアワーは、随時訪問可としていたので、時間に関係なく検定に関する質問等の訪問があった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ・授業評価アンケートにパワーポイント資料に関する要望があったので、資料を改善し、学生の満足度を上げる。
- ・秘書検定の受験状況によって、授業法を考える。

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書					氏名		濱口 なぎさ									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>1) 「オフィス情報演習」では、複数のアプリを活用した素材作成、レイアウトやデザイン、ドキュメントの内容を全て自分で考える課題、グループでイベントの企画を考え発表する課題などを提示し、自主的かつ能動的に取り組むよう指導することができた。授業評価アンケートの結果でも内容やレベル、教員の教え方、学生の学習意欲でも高い評価を得ていることから、今年度の目標は達成できたと思う。</p> <p>2) 「ビジネス文書作成2」を受講した1年生の約60%が学期末に日商PC検定試験を受験し、全員合格した。受験直前に受験対策講座を実施したことも功を奏したと感じている。一方で2年生で2名が卒業前の駆け込み受験となり、複数回受験しての合格となっている。また、上位級やMOS試験の受験を希望するも受験に至らなかった学生も多く、実践型教育プログラムの期間を利用した計画的な検定試験への挑戦はできなかったことは残念である。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>1) 基本的なパソコンの操作法の定着とともに、学生自身が考えて課題を解決するような応用的な課題への取り組みを増やし、実践力を強化する。特に、ビジネス用語や慣用表現については辞典等を使用して意味を確認する習慣を根付かせたい。リアクションペーパーを活用し、学生の理解度を確認しながら知識や技能の定着を図る方法は継続する。</p> <p>2) 2年生が実践型教育プログラムの期間を活用し、計画的に検定上位級へ挑戦し、客観的に自分の実力を確認し向上させることで自信を付けさせたい。試験的に曜日や時間を定めた受験指導の時間を設け、学生の検定受験への意欲継続を図りたい。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>1) 「オフィス情報演習」では、訴求力のあるドキュメント作成を行うための重要な素材となる写真の編集や、グループでのイベント企画の立案・予算編成・広報活動に取り組んだ。グループ活動では、リーダーシップとフォローシップが明確になるよう指導した。また、検定試験上位級への挑戦を促すための案内を定期的に行った。</p> <p>2) 「ビジネス文書作成2」では、日商PC検定3級の受験指導だけでなく、応用的なドキュメント作成を行う課題を多く取り入れ、前期で学んだ知識や技能を応用できる授業になるよう心がけた。初回と最終回に学生自身によるスキルチェックを実施し、新しい課題に取り組んだ際にはリアクションペーパーを活用し、学生一人ひとりの知識と技能の定着状況を把握するよう努めた。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>1) 「オフィス情報演習」では、学生たちが興味関心を持つような課題を提示することに心がけ、学生たちもこれに応じて能動的に熱心に取り組んでくれた結果、S評価が半数を超えた。学生による授業評価アンケート結果からも、内容やレベル、教員の教え方、学生の学習意欲ともに4.9以上となっている。「ビジネス文書作成2」については、S評価は2割程度であり、B評価が3割近くであったが、学生による授業評価アンケート結果からは、内容やレベル、教員の教え方、学生の学習意欲ともに4.7以上となっているため問題はないと考えている。</p> <p>2) 2年生は2名が日商PC検定2級に挑戦し、合格した。1年生は日商PC検定3級に8名が挑戦し全員合格している。日商PC検定は随時実施できるため、いつでも受験できるという甘い考えで、受験時期を先延ばしにする傾向があるため、できるだけ早い時期に挑戦するような意識付けを定期的に行いたい。</p>																
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
オフィス情報演習	22L	必修	17	87.5	9	52.9%	7	41.2%	0	0.0%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネスプランニング	22L	必修	17	84.5	8	47.1%	5	29.4%	2	11.8%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー2	22L	必修	17	85.6	10	58.8%	2	11.8%	3	17.6%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%
フィールドワーク	22L	選択	0	85.6	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ4	22L	選択	0	85.6	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネス文書作成2	23L	必修	19	84.9	4	21.1%	10	52.6%	5	26.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー1	23L	必修	19	81.5	9	47.4%	4	21.1%	4	21.1%	2	10.5%	0	0.0%	0	0.0%
ライフプランニング	23L	必修	19	88.4	9	47.4%	10	52.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
オフィス情報演習	22L	4.9	5.0	4.9	4.7	71.3分	4.9
ビジネスプランニング	22L	*	*	*	*	*	*
キャリアアップセミナー2	22L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	22L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ4	22L	*	*	*	*	*	*
ビジネス文書作成2	23L	4.7	4.8	4.7	4.7	47.4分	4.5
キャリアアップセミナー1	23L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	23L	*	*	*	*	*	*
ライフプランニング	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ1	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ2	23L	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23L	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「オフィス情報演習」ではグループディスカッションとプレゼンテーションを行った。「ビジネス文書作成2」では、リアクションペーパーやスキルチェックシートを活用し、学生の習熟度把握に努めた。ゼミナールでは、毎時間グループディスカッションを行った。
 オフィスアワーの実施状況は、指定した時間以外に訪問してくる学生が多かったが、欠席した学生のフォローや就職活動への助言、個人的な相談などの対応を行った。 ■

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- 1) 基本的なパソコンの操作法の定着とともに、学生自身が考えて課題を解決するような応用的な課題への取り組みを増やし、実践力を強化する。リアクションペーパーを活用し、学生の理解度を確認しながら知識や技能の定着を図る方法は継続する。
- 2) 2年生が実践型教育プログラムの期間を活用し、計画的に検定上位級へ挑戦し、客観的に自分の実力を確認し向上させることで自信を付けさせたい。1年生の多くが就活が始まる前までに日商PC検定3級に挑戦し、合格できるよう授業内外での指導を心がける。

令和 5 年度 後期 授業評価報告書					氏名		武藤 玲路									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>1) 前年度後期の1年生の社会心理学では、専門用語の説明から名称を選択する語群問題は殆ど正解していたが、○×問題や用語を説明する記述問題はあまり出来ていなかった。</p> <p>2) 前年度後期の1年生のビジネスデータ活用2では、エクセルのグラフ問題は正解していたが、関数問題やピボットテーブルでは学生の理解度に二極分化の傾向が強く見られた。</p> <p>3) 前年度後期の1年生のライフプランニングでは、社会貢献や地域貢献のためのPR動画の制作に取り組んだが、観光案内やお店の紹介が多く、社会問題等の動画が少なかった。</p> <p>4) 前年度後期の2年生のビジネスプランニングでは、アロマ商品の開発に取り組み、アロマの香りとディフューザー、パッケージのデザインをグループディスカッションを通して提案した。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>1) 今年度の社会心理学では、心の一般的な仕組みと法則について、個人・対人・集団の観点から専門用語の意味や事例を説明し、日常生活で活用できるようにしたい。</p> <p>2) 今年度のビジネスデータ活用2では、特に関数とピボットテーブルの機能と活用法、操作法について十分理解した上で、目的に応じて自由自在に操作できるようにしたい。</p> <p>3) 今年度のライフプランニングでは、近年の社会問題に対して、地元長崎や地域に貢献できるようなオリジナリティとインパクトのあるPR動画が作成できるようにしたい。</p> <p>4) 今年度のビジネスプランニングでは、いくつかの商品開発を通して、AIよりも人間が得意とする人間性とデザイン思考を活かした商品開発の手法を修得できるようにしたい。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>1) 社会心理学では、一人でいるときの心の働きや、対人関係、集団・社会生活における心理現象について、具体的な事例を示した動画教材を用い、わかりやすく丁寧に説明した。</p> <p>2) ビジネスデータ活用2では、授業の前半はテキストに沿ってエクセルの機能と操作方法を説明し、授業の後半では独力で練習問題に取り組む授業構成として理解度を高めた。</p> <p>3) ライフプランニングでは、魅力的でインパクトのある動画にするために、構成、アングル、音声と文字の説明、BGM、ストーリー性、転換の発注に工夫をするように助言した。</p> <p>4) ビジネスプランニングでは、アロマ商品の香りの開発とイメージカラーの検討、マスキングテープ、キャラクターシールの作成に取り組み、PR用のチラシやポスターの作成も行った。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>1) 社会心理学のアンケートは全項目が4.3以上で高評価だった。平均点は88.7点で、SとAの割合は95%と高得点だった。理解力、構成力、表現力を強化する必要がある。</p> <p>2) ビジネスデータ活用2のアンケートは全項目が4.4以上で高評価だった。平均点は82.8点で、SとAの割合は68%だった。理解力、応用力が低い学生の支援が必要である。</p> <p>3) ライフプランニングの平均点は88.4点で、SとAの割合は100%だった。今後も引き続き学生の支援に努めたい。</p> <p>4) ビジネスプランニングの平均点は84.5点で、SとAの割合は77%だった。今後は理解力、応用力が低い学生の支援が必要である。</p>																
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ビジネスプランニング	22L	必修	17	84.5	8	47.1%	5	29.4%	2	11.8%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー2	22L	必修	17	85.6	10	58.8%	2	11.8%	3	17.6%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%
フィールドワーク	22L	選択	0	85.6	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
インターンシップ4	22L	選択	0	85.6	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネスデータ活用2	23L	必修	19	82.8	8	42.1%	5	26.3%	4	21.1%	2	10.5%	0	0.0%	0	0.0%
社会心理学	23L	必修	19	88.7	8	42.1%	10	52.6%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー1	23L	必修	19	81.5	9	47.4%	4	21.1%	4	21.1%	2	10.5%	0	0.0%	0	0.0%
ライフプランニング	23L	必修	19	88.4	9	47.4%	10	52.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ビジネスプランニング	22L	*	*	*	*	*	*
キャリアアップセミナー2	22L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	22L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ4	22L	*	*	*	*	*	*
ビジネスデータ活用2	23L	4.6	4.5	4.7	4.4	81.7分	4.4
社会心理学	23L	4.4	4.3	4.4	4.3	68.3分	4.4
キャリアアップセミナー1	23L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	23L	*	*	*	*	*	*
ライフプランニング	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ1	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ2	23L	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23L	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- 1) 社会心理学では、自由研究として、心理学の専門用語に関する文献研究を行い、その日常的な活用法などについてプレゼンテーションをしている。
- 2) ビジネスデータ活用2では、自由研究として、実際のデータを用いて各種のグラフを作成し、グラフの解釈についてプレゼンテーションをしている。
- 3) ライフプランニングでは、就職の自己PRや入社後の抱負について、グループディスカッションや中間報告会、プレゼンテーション大会を行っている。
- 4) ビジネスプランニングでは、顧客のニーズや商品開発の内容について、グループディスカッションや中間報告会、プレゼンテーション大会を行っている。
- 5) オフィスアワーに訪問する学生はいないが、それ以外の時間にパソコンに関する質問が週に数件あるため、パソコンを用いて操作方法を説明している。▪

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- 1) 次年度の社会心理学では、授業で学んだ社会心理学に関する心の機能や法則を、日常生活での悩みや意思決定に活用できるように理解力と応用力を高めていきたい。
- 2) 次年度のビジネスデータ活用2では、エクセルを用いて基本的なアンケートの集計を行い、実用的で利便性と有用性の高い図表の作成ができるように支援していきたい。
- 3) 次年度のライフプランニングでは、毎回アクティブラーニングを用いて、学習意欲や問題解決力の向上を図り、自己PRと自己主張、今後の抱負と意思決定ができるようにしたい。
- 4) 次年度のビジネスプランニングでは、自分や社会の日常的・将来的な問題の発見と解決について、根拠に基づいて論理的に思考し、説得力と貢献力のある人材を育成していきたい。

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	森 弘行
---------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

・ 数的理解では反転授業を取り入れたことで、授業外学習時間は若干増え、理解度、満足度が改善。
 ・ 基礎学力の低下。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

・ 数的理解では反転授業を継続。
 ・ ウェブデザインでは、ファイルやフォルダの関係が重要となるため、改めて指導を行うとともに各学生の進捗度を可視化する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

・ 数的理解について、引き続き学生による解説授業を取り入れる。教科書だけではなく身近な事例を取り上げて活用する。
 ・ ウェブデザインでは、学生のみならず質問に対応するため、情報管理センター職員に補助を依頼する。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
--

・ 数的理解では、学生に練習問題の解説を行わせることで、自身の勉強に役立ったと評価する回答もある一方で、「学生の理解度」については昨年度より有意 (p<0.05) に評価が低下している。他の項目については昨年度と有意な差は見られなかった。
 ・ ウェブデザインについても「学生の理解度」については昨年度より有意 (p<0.05) に評価が低下している。他の項目については昨年度と有意な差は見られなかった。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ビジネスプランニング	22L	必修	17	84.5	8	47.1%	5	29.4%	2	11.8%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー2	22L	必修	17	85.6	10	58.8%	2	11.8%	3	17.6%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%
フィールドワーク	22L	選択	0	85.6	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
介護・救急法	22L	選択	10	77.5	5	50.0%	3	30.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%
インターンシップ4	22L	選択	0	77.5	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
数的理解	23L	必修	19	64.8	0	0.0%	2	10.5%	3	15.8%	13	68.4%	1	5.3%	0	0.0%
ウェブデザイン	23L	必修	19	84.1	8	42.1%	5	26.3%	5	26.3%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%
キャリアアップセミナー1	23L	必修	19	81.5	9	47.4%	4	21.1%	4	21.1%	2	10.5%	0	0.0%	0	0.0%
ライフプランニング	23L	必修	19	88.4	9	47.4%	10	52.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ビジネスプランニング	22L	*	*	*	*	*	*
キャリアアップセミナー2	22L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	22L	*	*	*	*	*	*
介護・救急法	22L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ4	22L	*	*	*	*	*	*
数的理解	23L	3.4	3.6	4.3	2.9	88.3分	3.3
ウェブデザイン	23L	3.7	3.6	4.7	3.6	98.3分	3.8
キャリアアップセミナー1	23L	*	*	*	*	*	*
フィールドワーク	23L	*	*	*	*	*	*
ライフプランニング	23L	*	*	*	*	*	*
介護・救急法	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ1	23L	*	*	*	*	*	*
インターンシップ2	23L	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	23L	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

オフィスアワー内での対応実績はないが、柔軟に対応。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・基礎学力の二極化が進んでいるものと考えられる。
 ・試験や課題についても暗記に頼ろうとする傾向が強く、論理的思考力、応用力が必要なことを理解させる必要がある。

令和 5 年度 後期 授業評価報告書					氏名		荒木 正平									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>1. 前年度大きな影響を受けた社会的養護Ⅱの演習であるが、今年度は新型コロナの感染状況を見ながらも、グループ演習の実施ができた。特別な教育的ニーズの理解とその支援についても、伝えるべき情報量と学生理解度、コロナの感染状況のバランスを考えながら個人演習の形態を採用した。結果、講義系・演習系・ゼミナールそれぞれについて前年度より全体に満足度は向上させることができた。</p> <p>2. すべての学びが保育実践に繋がっているという意識を学生に持たせることは常に意識し、演習・講義の構成を工夫した。コロナの影響についても軽減しており、授業の質は上がってきていると考える。ただし、細かい不満や指摘も学生からは上がっており、個別対応の充実は今後も課題となる。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>1. 担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上 担当して2年目となる「特別な教育的ニーズの理解とその支援」の科目においては、授業回数の変更もあり、前年度よりさらに講義と演習のバランスを考える必要が出てくる。その他の科目についても、アクティブラーニングの手法を活かしつつ、学生の意欲的・主体的な取り組みを促す授業実践を目標としたい。</p> <p>2. 「保育実習Ⅲ」選択学生への対応の充実と、実習指導内容の充実と連携強化 ①「保育実習Ⅲ」選択学生への対応充実と体制整備を行いつつ、前年度に引き続き、②各授業における、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、施設職員との連携の強化、③学生の関心・意欲や個別に異なる課題にこたえる個別支援・指導の実施。以上を目標とする。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (D0: 実行)																
<p>1. 講義形式の科目(社会福祉、社会福祉概論)では、前年度に引き続き教科書を中心に知識の定着を図った。学生が興味を持てる映像資料などの視聴覚教材を効果的に活用した。社会福祉概論については、生活創造学科の特性や目標設定に配慮した資料の作成やミニテストの実施などを行い、学生アンケート結果にもその有効性に触れたものを確認することができた。また、学生自身が問題設定をして能動的に学ぶ個人演習も今年度より取り入れた。演習科目の社会的養護Ⅱでは、今年度も、学生の主体性・能動性を引き出すようなグループ活動を取り入れた。里親当事者の語りを聞く機会を通して、その意義や難しさについても触れることができるような機会を設けた。</p> <p>2. 「保育実習Ⅲ」選択学生への対応については、各授業担当者や、事務担当職員、また施設関係者とも連携しながら適切に支援体制の構築をはかった。特に実習Ⅲについては、就業も見据えた実践を意識した事前・事後指導の活用を意識した。その他、学生毎の理解度や課題に対応するための機会の設定も各教員と連携しながら実践につなげられた。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>1. 講義形式の各科目のうち、「社会福祉」については今年度も大きな内容変更なく実施することができ、アンケート結果からも大きな問題は確認されなかった。「社会福祉概論」については、前述の通り、やや構成を変更し、学生の主体性を引き出すようなレポート課題の作成への取り組みの機会を提供したが、これについても学びを深める機会となったといった主旨の感想もえられた。演習系科目の「社会的養護Ⅱ」についても、今年度もグループ演習の実施ができ、学生評価もおおむね良好であった。各科目とも、引き続き、講義内容の充実と個別理解度のバランスを見ながら、よりよい実践につなげていきたい。</p> <p>2. 前述のとおり、特に今年とは「保育実習Ⅲ」の体制整備を中心課題として取り組んできたが、選択学生の支援が適切に実施できた。その他実習関係に関しては、資料(掲示用のパワーポイント、配付用のレジュメ)のわかりやすさを工夫することで、学生の実習への取り組みがよりスムーズになるよう改善した。個別対応の充実は今後も課題となる。</p>																
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
社会福祉概論	22S	選択	24	84.3	12	50.0%	5	20.8%	6	25.0%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
社会福祉	22Y	選択	86	85.3	25	29.4%	42	49.4%	14	16.5%	4	4.7%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	22Y	選択	85	79.1	13	15.5%	38	45.2%	20	23.8%	11	13.1%	0	0.0%	2	2.4%
保育実習Ⅲ	22Y	選択	5	50.6	0	0.0%	3	60.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	40.0%
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	22Y	選択	87	79.4	5	5.8%	41	47.7%	33	38.4%	7	8.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習(幼)	22Y	選択	86	82.3	34	40.0%	20	23.5%	15	17.6%	16	18.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22Y	必修	10	90.0	5	50.0%	5	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
社会福祉概論	23L	選択	2	87.5	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
社会的養護Ⅱ	23Y	選択	68	80.9	21	29.2%	31	43.1%	13	18.1%	4	5.6%	1	1.4%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
社会福祉概論	22S	4.4	4.4	4.4	4.1	66.3分	4.4
社会福祉	22Y	4.5	4.5	4.4	4.3	72.5分	4.4
保育実習Ⅱ	22Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅲ	22Y	*	*	*	*	*	*
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	22Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習（幼）	22Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*
社会福祉概論	23L	5.0	5.0	5.0	5.0	75.0分	5.0
社会的養護Ⅱ	23Y	4.7	4.8	4.8	4.6	34.7分	4.7
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

〈アクティブラーニングについて〉

今年度は、前述の通りアクティブラーニングの実施範囲をさらに拡大させ、内容も充実させることができた（社会福祉概論のレポート課題など）。

〈オフィスアワーについて〉

効果的に活用できている。学生への周知徹底についても、研究室前の掲示などを実施した。今後も、よりスムーズな学生支援の実施につなげられるようにしていきたい。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1. 担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上

現在アクティブラーニングを実施している科目についても、その内容や学習効果の再検討など実施しながら、学生の意欲的・主体的な取り組みを促す授業実践を目標としたい。

2. 「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅲ」選択学生への対応の充実と、実習指導内容の充実と連携強化

①「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅲ」の担当教員に変更に伴う体制整備と情報共有をスムーズに行う。あわせて、②各授業における、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、教職員間および施設職員との連携の強化、③学生の関心・意欲や個別に異なる課題にこたえる個別支援・指導の実施。以上を目標とする。

令和 5 年度 後期 授業評価報告書					氏名		織田 芳人									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
【生活とアート】 講義を主体として授業を行ったが、受講生の希望から実技を1回加えることにした。結果的に、実技の回数を増やしたほうが積極的に受講するよう思われた。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
【生活とアート】 実技の回数を増やすことで、受講生の積極的取り組みへつなげることをしたい。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
実技の回数を3回設けて、季節に応じた課題としてハロウィンとクリスマスを取り上げた。他の1回は現代美術の表現手法の一つである「切り紙絵」をテーマとした。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
授業評価が高めであったことから、実技を加味しながら講義を進めていくことが良かったと考えられる。																
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生活とアート	22S	選択	2	84.5	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
生活とアート	22L	選択	6	81.7	1	16.7%	3	50.0%	1	16.7%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	22Y	選択	85	79.1	13	15.5%	38	45.2%	20	23.8%	11	13.1%	0	0.0%	2	2.4%
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	22Y	選択	87	79.4	5	5.8%	41	47.7%	33	38.4%	7	8.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習(幼)	22Y	選択	86	82.3	34	40.0%	20	23.5%	15	17.6%	16	18.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22Y	必修	0	82.3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
生活とアート	22S	4.0	3.5	4.0	4.0	45.0分	4.0									
生活とアート	22L	4.5	4.5	4.8	4.8	45.0分	4.5									
保育実習Ⅱ	22Y	*	*	*	*	*	*									
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	22Y	*	*	*	*	*	*									
保育・教職実践演習(幼)	22Y	*	*	*	*	*	*									
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*									
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*									
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
実技の回は、グループになって課題制作に取り組むので、自ずと互いに意見を交わす場面が見られた。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
次年度は15回から8回に授業回数が減るけれども、実技を3回実施して、受講生の積極的取り組みにつなげていくこととする。																

令和 5 年度 後期 授業評価報告書	氏名	大徳 朋子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

講義スライドとプリント内容を同じものにし、記入しやすくしたことでプリント学修はスムーズになったと感じられた。教室によっては、スライドの文字の見にくさを感じる学生の声を聞いており、文字の大きさや色などを工夫した。それにより、授業への集中性は高まったと感じられた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

学生の理解度に合わせて講義内容を修正しながら進めていく。リアクションペーパーなどからのどのくらいの理解度を得られているか、参加への意欲なども把握しながら進めていく。グループ学修の際には、できるだけ机間巡視をする中で学生とのやりとりを取り、わからない部分の把握と全体の理解度を測り、講義に反映させながら進める。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

講義前に、現場で実施できるような簡単な手遊びやゲームを取り入れ、講義への参加意欲を高めるように工夫した。幼児教育学科以外のコースでも行ったが、講義へ興味関心が高まり効果があったと感じられた。また、昨年同様、プリントの記入やワークの取り組みといった作業を取り入れ、グループでの事例検討などの参加を含めて主体的に講義が受けられるように配慮した。教科書の説明だけではなく、できるだけ具体的なイメージを持てるような子どもや親とのやりとりなど例に出して説明をした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

アンケートの結果より、講義内容については一定の理解が得られたのではないかと考えている。各時間の理解度などは簡単なリアクションペーパーなどの利用でさらに細かく把握することができたのではないかと感じられている。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
心理学	22S	選択	13	89.8	9	69.2%	4	30.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
心理学	22L	選択	7	81.9	0	0.0%	5	71.4%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの理解と援助	22Y	選択	86	79.8	19	22.4%	32	37.6%	15	17.6%	19	22.4%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと人間関係	23Y	必修	68	80.5	22	30.1%	27	37.0%	14	19.2%	7	9.6%	0	0.0%	1	1.4%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
心理学	22S	4.4	4.4	4.2	4.2	6.9分	4.3
心理学	22L	5.0	5.0	4.8	4.6	36.0分	5.0
子どもの理解と援助	22Y	4.4	4.4	4.4	4.3	47.7分	4.4
子どもと人間関係	23Y	4.8	4.8	4.8	4.7	33.8分	4.7

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義中の机間巡視などで質問をする学生もいた。個別対応にはなるが、そのような時間でのやりとりには気づきや意欲の増加などの意味合いもあると考える。また個別での質問は、全体でも確認したい項目であることが多いと思われたので、全体に広げて考えさせたり、説明を加えていった。オフィスアワーの利用者はいなかった。こちらの時間的余裕がなかったことも利用につながらなかった要因と思われた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

今後については教壇に立つ機会があったら、講義中、講義後の学生からの質問や意見交換などを大切にし、より学生が授業への意欲を高めて授業参加ができるように検討していきたい。わかりやすい講義と、具体的な事例を伝えることに努めていきたい。

令和 5 年度 後期 授業評価報告書	氏名	中澤 伸元
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

様々な個人的トラブルがあり、練習方法を変えてみた。
個人指導に時間を費やした結果、一人一人の課題に徹した為、学生の意欲と情熱が高まった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

個人個人が保育者として園児に指導できるだけの力をつけることを目標とする。
改善点は、徹底した指導内容とコミュニケーション能力強化に徹したい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

一人一人の課題を徹底的に指導していきたい。
ある程度の成果が出てから総合練習の徹底したイメージトレーニングに徹していく。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

徹底した個人指導が成果をえたので、来年はもっと徹底していきたい。
課題は、一人一人の決意。
知る、理解、やる、→ できる、活用するまで自信をつけさせたい。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ゼミナール	22Y	必修	9	87.4	3	33.3%	5	55.6%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
音楽演習	22Y	選択	20	87.6	8	40.0%	11	55.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ボイストレーニング(うた表現)	23Y	選択	68	75.0	4	5.6%	30	41.7%	28	38.9%	8	11.1%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*
音楽演習	22Y	*	*	*	*	*	*
ボイストレーニング(うた表現)	23Y	4.5	4.4	4.5	4.5	18.4分	4.4

*...学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

今年はアクティブラーニングがスムーズに行えない程、学生の対立が発生した。
後半になって、お互いの技術が優れてきた途端に、それぞれの認め合い、スムーズに行くようになった。
後半には驚く程個人的な意欲、相談が多くなった。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

全員が役立てる保育士を目指す。
できる(決意) → できつつある(過程) できた(結果)につながる指導。
アパシオナート自覚を持って授業に臨み、自分の課題に徹する。
好奇心、週聴力、イメージ、理解、五感、感情表現などに徹する。

令和 5 年度 後期	授業評価報告書	氏名	中村 浩美
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)			
<p>歌唱や弾き歌いの授業及び個別レッスンでは学生の必要以上の緊張や抵抗があるため、教員と学生間の距離が少しでも縮められ信頼関係を築くことをこの1年間さらに念頭において行った。学生の性格によつての指導方法には気を遣いながらその学生のペースを見ながら進めていき、出せなかった音域や声量に成長の変化を感じながら練習方法と継続が大切である事を根気よく指導した。また歌詞の持つ意味の重要性にも今まで気付いていなかった学生が、さらに重要なイメージ力にも繋げられる工夫も行った。これによって学生はただ好きで歌っていた軽い思いから少しずつ変化してきた事に自らも気付くようになり、子どもの歌、それ以外の歌に対するの思いや表情、イメージ力、歌唱技術の成果に驚喜んでいた。また、練習の仕方を少しずつ会得してもらうために、個人や2,3人ずつを指導しながら他の学生にも何に繋がりとどんな課題をアップさせているかを発表して研究しあった取り組みをした。弾けるようになったと言う事・歌えるようになったと言う事の喜びと、保育者になる気持ちを高める意識に繋げるよう意識しながら指導に当たった。学生の意見や考え・思いを随時聞くようにもした。結果学生も少しずつ心を開いて考えや思い、疑問点や改善点を話すようになってきた。全員ではないが意欲を感じられ努力する学生も見られた。1年生はピアノ初心者や初心者と同等のレベルである学生が3分の2を占めていたため、実習に向けての指導強化が必要である事は今年度も勿論、今後さらにこの問題点に於いての授業研究が必要と考えている。コロナ渦中のマスク着用の影響で人前で歌う事、弾き歌いをする事に羞恥心や抵抗がある学生がやはり多く、表情や口の開け方、明瞭な歌詞読みのための工夫ある授業展開をさらに研究する。</p>			
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)			
<ul style="list-style-type: none"> ・教員として学生が成長できるための能力や個性を持ち備えている事を常に意識しながら指導する。 ・少しの成長や達成に対しても褒めながら分析・説明をする。 ・保育者になるための高い意識を持たせること、やる気にさせるための指導方法の工夫をする。 ・人の前にでることへの羞恥心を軽減できるための授業展開を行う。 ・言葉や感情や場を考慮して指導する。 			
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)			
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナやインフルエンザ感染予防に非常勤講師の先生方にも協力をして頂き、また、学生にも頻繁に感染要望への諸注意をしながら授業を行った。 ・学生一人ひとりの個性を早く見極め、普段から声掛けを心掛けた。 ・保育者としてだけではなく、社会人としての必要な常識を踏まえながら授業を進行させた。特に笑顔ある元気な挨拶と言葉遣い、返答の仕方。 ・メンタル面強化の励みの言葉かけをした。 ・音楽を奏でられる喜びや楽しさを感じてもらうために、その行事に見合ったディスプレイをしながらいろんなジャンルの選曲の下授業を行った。 ・学生自身が自らの課題点や到達点を発見でき、次のステップに活かせる助言と指導を行った。 ・自信は勇気の積み重ねであり、失敗を恐れず一歩を踏み出すメンタル面からの勇気を促した。 			
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に			
<p>常に学生とのコミュニケーションを大切にしてきた。教員と学生間の距離を縮めながらお互いを知り、信頼関係を築く事で極度な緊張感を緩和させながら向き合う授業となった。しかし、一番緊張する人前での歌唱には羞恥心と自身のなさにかなりの時間を要するため、メンタル的な強さの積み重ねと勇気と言う積極性の積み重ね、自分の成果を認め受け入れる事にも根気よく焦らず指導をした。ゼミでは特に教員と学生間の溝はなく、目標・到達点に近づくための指導ができたたと思う。コロナやインフルエンザ感染者が多くマスクを着用しての歌唱指導には限界があった。歌唱・音楽指導に必要な不可欠な表情筋・口角アップ・ブレス・体幹を意識しての体の筋肉の使い方声を出すのだが、声を思い切り出せない事で改善点や良い点を学生自身が理解して継続できる事が大きな問題点であった。また、発声法に準じて楽曲を表現するための歌詞読みも、思いや考えをイメージしながら抑揚を持って発する事がなかなかできず、イメージ力が低下している学生への指導には一層の研究・工夫が必要と考える。学生達は歌う事が好きで、知っている曲は勿論初めての曲にも興味を持って受講していたのは良かった点と言える。それに関しては選曲も良かったと考える。まだ緊張感を抱き控えめになりがちである事や、自分を表現する事が苦手な昨今の学生への声かけと指導には威圧感なく行う事が今年度も課題である。また、年々ピアノ初心者が増加しているが、その学生達を始め努力の継続がなく次のピアノレッスン・歌唱・手あそび歌授業を迎える学生がいたため、どのような指導が練習継続の強化に繋がるかは益々の課題である。</p>			

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもの歌と伴奏法	22Y	選択	79	79.9	5	6.3%	43	54.4%	23	29.1%	8	10.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	22Y	選択	85	79.1	13	15.5%	38	45.2%	20	23.8%	11	13.1%	0	0.0%	2	2.4%
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	22Y	選択	87	79.4	5	5.8%	41	47.7%	33	38.4%	7	8.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習(幼)	22Y	選択	86	82.3	34	40.0%	20	23.5%	15	17.6%	16	18.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22Y	必修	11	87.6	5	45.5%	6	54.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
音楽演習	22Y	選択	20	87.6	8	40.0%	11	55.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現	23Y	選択	68	81.2	7	9.9%	41	57.7%	19	26.8%	3	4.2%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもの歌と伴奏法	22Y	4.6	4.6	4.5	4.6	101.9分	4.6
保育実習Ⅱ	22Y	*	*	*	*	*	*
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	22Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習(幼)	22Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*
音楽演習	22Y	*	*	*	*	*	*
保育と音楽表現	23Y	4.8	4.8	4.8	4.7	69.3分	4.7
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

音楽を通じて心の悩みを打ち明ける学生を始め、音楽に関係なく悩みや不安を打ち明けて来る学生も多く、それぞれ抱えている悩みに時に教員として、時に人生の先輩として、心からの思いや考え、方法などを時間をかけながら相談にのっている。また教員であっても一人の変わりない人として辛い胸中を逆に聞いてもらいながら、その学生への知らなかった面も発見でき、お互いの心の距離を縮める事となった。その信頼関係からが歌唱・ピアノ奏法等の音楽表現への積極性にも良い影響をもたらした。相談に来た学生も時間をかけて何度も面談をする事で心のつかえが取れたり、悩みを解決しようと言う前向きな考えを持つようになってきたりと、悩みを克服したい一心がその学生の成長に繋がっていると感じている。今後も学生の悩みや相談には時間をかけてじっくり話を聞きたい。学生の悩みの負担を軽減できながら日常生活、学校生活に活気ある思いを持って日々過ごせるよう共に考えながらも、教員としての慎重な助言、心あるある助言に気を配りたい。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

- ・子どもだけではなくどんな方に対しても明るく笑顔ある元気な挨拶や返答ができるよう、教員自らが学生がすべく挨拶の仕方等を授業始めに行う
- ・ピアノや弾き歌いの不安感が強い学生、自分の声にコンプレックスを持っている学生、何の音からファルセットになるのか等の発声技術に関しても常に不安や自信のなさばかりが目立つ学生への丁寧な指導と、自身の声は個性であり勇気を持って出す事へのメンタル面の強化や、学生自身が各々の課題を知り克服できるための指導を強化したい。
- ・学生一人ひとりの性格を早く把握し、各々の個性を大切に教員と学生間の信頼関係を構築しながら指導したい。
- ・学生自身が自分の良さや課題点、好きな面、嫌いな面と、自分を知る事によつ今後の人生にどう繋がるかのディスカッションを設け、その機 教員も自身の人生経験を話しながら課題点を克服できるように、また良い点はさらに伸びるよう指導したい。

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	野田 章子
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

学生の満足度をあげる。
ICTを効果的に用いて分かり易い授業をする。
授業配布プリントを工夫する。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

講義や実技の授業の形態を工夫する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

学生の満足度をあげるために、参加型（ディスカッション、プレゼンテーションなど）を授業に取り入れる。
パソコンでポスターを作るなどICTを活用する。
書き込み型の授業配布プリントで学習をする。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生の授業アンケートから、授業の内容や、教え方、学習意欲、全体の満足などはほぼ適当であったと読み取れるが、学生の理解度が少し下がっている。これは、定期テストの取り組みや結果が反映されていると考えられる。学生の理解度をあげるためのサポートが今後の課題である。プレテストなどを活用して小テストや定期テストなどの理解度をあげる。
分からない学生には、補修用のプリントをつくるなどをして、個別対応できるようにする。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習Ⅱ	22Y	選択	85	79.1	13	15.5%	38	45.2%	20	23.8%	11	13.1%	0	0.0%	2	2.4%
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	22Y	選択	87	79.4	5	5.8%	41	47.7%	33	38.4%	7	8.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習（幼）	22Y	選択	86	82.3	34	40.0%	20	23.5%	15	17.6%	16	18.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22Y	必修	12	92.1	12	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
体育実技	23Y	選択	68	84.9	35	48.6%	25	34.7%	8	11.1%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%
領域「健康」の指導法	23Y	選択	68	79.6	21	29.2%	24	33.3%	17	23.6%	8	11.1%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
保育実習Ⅱ	22Y	*	*	*	*	*	*
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	22Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習（幼）	22Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*
体育実技	23Y	4.8	4.8	4.8	4.7	26.3分	4.8
領域「健康」の指導法	23Y	4.7	4.7	4.7	4.6	42.1分	4.7
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

オフィスアワーに限らず、学生の研究室訪問や進路、友人関係、勉学などの相談に多数対応することができた。授業外学修時間の確保できなかったのが、来年度の課題としたい。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

授業外学修時間の確保できるような、取り組みをおこなう。

令和 5 年度 後期	授業評価報告書	氏名	福井 昭史
------------	---------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

「子どもと音楽表現」は本年度から15回から8回の授業へのカリキュラム変更があったことから内容の精選を図った。
「保育と音楽表現」と「子どもの歌と伴奏法」ではピアノの授業を担当し、その技能と表現力の向上を図るための指導方法と教材の開発を行うこととした。
「生活と音楽」では前年度、合奏表現の活動を取り上げたところ学生の意欲も高く効果的であったため、今年度も取り入れることとし、その教材開発にあたることとした。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

「子どもと音楽表現」は各時の目標と内容を精選し、目標を焦点化した指導計画を作成し、指導にあたる。
「保育と音楽表現」と「子どもの歌と伴奏法」で担当するピアノの授業の教材開発を行い、学生の技能のレベルに合った学習を展開することに努める。
「生活と音楽」では、合奏表現の活動を取り入れたカリキュラムを作成するとともに、そのための教材を開発し指導にあたることとする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

「生活と音楽」では、各時の目標と内容を焦点化し、学生に授業の目標を自覚させながら活動にあたった。また、学生の実態を踏まえた教材を開発し指導にあたった。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

「生活と音楽」では、学生が各時の目標を自覚して活動することができたため、活動意欲や理解度が上がったことがアンケートの結果に表れていると考えられる。この科目は来年度15回から8回へと授業回数が削減されるので、授業カリキュラムの作成が課題である。
ピアノの実技指導を担当した「保育と音楽表現」「子どもの歌と伴奏法」は学生個々の能力に合わせた教材の選択、指導方法としたことから知識、技能の向上がみられ、学生の満足度も高かった。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生活と音楽	22S	選択	11	81.9	2	18.2%	5	45.5%	3	27.3%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%
生活と音楽 (2年次開講)	22L	選択	1	80.0	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの歌と伴奏法	22Y	選択	79	79.9	5	6.3%	43	54.4%	23	29.1%	8	10.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	22Y	選択	85	79.1	13	15.5%	38	45.2%	20	23.8%	11	13.1%	0	0.0%	2	2.4%
教育実習 (事前・事後指導1単位含む) (幼)	22Y	選択	87	79.4	5	5.8%	41	47.7%	33	38.4%	7	8.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習 (幼)	22Y	選択	86	82.3	34	40.0%	20	23.5%	15	17.6%	16	18.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22Y	必修	2	85.0	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保育と音楽表現	23Y	選択	68	81.2	7	9.9%	41	57.7%	19	26.8%	3	4.2%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
生活と音楽	22S	3.9	4.4	4.2	4.3	5.5分	4.4
生活と音楽（2年次開講）	22L	*	*	*	*	*	*
子どもの歌と伴奏法	22Y	4.6	4.6	4.5	4.6	101.9分	4.6
保育実習Ⅱ	22Y	*	*	*	*	*	*
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	22Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習（幼）	22Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*
保育と音楽表現	23Y	4.8	4.8	4.8	4.7	69.3分	4.7
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「子どもと音楽表現」では、楽器を用いたグループによる創造的な活動を取り入れた。
 「保育と音楽表現」と「子どもの歌と伴奏法」では、学生が歌やピアノ演奏の独自の課題に対して主体的に取り組めるよう努めている。
 「生活と音楽」では、楽器による表現の活動、個人やグループによる音楽の創作を取り入れている。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

「子どもと音楽表現」「生活と音楽」では、引き続き学生が各時の目標を自覚して活動することができるよう教育方法の改善を図る。また「生活と音楽」は、15回から8回へと授業回数が削減されるので、授業のカリキュラムと各時の指導計画する。
 ピアノの実技指導を担当する「保育と音楽表現」「子どもの歌と伴奏法」は、引き続き学生個々の能力に合わせた教材の選択、指導方法とすることで、個々の知識、技能の向上に努める。

令和 5 年度 後期 授業評価報告書					氏名		船勢 肇									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<ul style="list-style-type: none"> 自由課題について、期間や評価について学生がより納得しやすい形を模索する。 レポート添削について改善をはかる。 1年生の模擬保育では、受講者全てに1人発表の機会を与えることも考える。 																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<ul style="list-style-type: none"> 自由課題についてより充実させる。 模擬保育の回数、一人発表の機会を増やす。 																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<ul style="list-style-type: none"> 自由課題の時間を拡大させ、グループディスカッションで他の学生と対比させる時間を設けた。 模擬保育の一人発表の機会を増やした。 																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<ul style="list-style-type: none"> 自由課題は、個人差が大きい。 一人発表の機会を増やし好評を得た。 映像は好評を得た。 																
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育者論	22Y	選択	86	73.8	6	7.1%	19	22.4%	28	32.9%	32	37.6%	0	0.0%	0	0.0%
保育実習Ⅱ	22Y	選択	85	79.1	13	15.5%	38	45.2%	20	23.8%	11	13.1%	0	0.0%	2	2.4%
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	22Y	選択	87	79.4	5	5.8%	41	47.7%	33	38.4%	7	8.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習(幼)	22Y	選択	86	82.3	34	40.0%	20	23.5%	15	17.6%	16	18.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22Y	必修	5	78.0	2	40.0%	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
領域「言葉」の指導法	23Y	選択	35	75.3	5	14.3%	10	28.6%	12	34.3%	7	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度									
保育者論	22Y	4.1	4.1	4.2	4.1	66.3分	4.2									
保育実習Ⅱ	22Y	*	*	*	*	*	*									
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	22Y	*	*	*	*	*	*									
保育・教職実践演習(幼)	22Y	*	*	*	*	*	*									
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*									
領域「言葉」の指導法	23Y	4.6	4.6	4.9	4.7	104.4分	4.8									
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*									
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

模擬保育・自由課題・グループディスカッション・レポートなどおこなった。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- ・自由課題は、個人差が大きい。最低ラインを設定し、再提出を求めるなど検討する。
- ・発表の機会を増やしたい。
- ・映像は好評を得たので、内容を改善し、継続する。
- ・1年生と2年生の交流会は時期や人数の関係から、実現は難しくなるおそれがある。

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	松尾 公則
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

幼児教育学科の「ヒトと生物」は園児を相手とする教員にとって知って欲しい生きものについての知識と体験の講座である。毎年10数名の受講者があり、満足度も高く園でも役立つ内容として評価も高かった。更なる中身の充実を図るべく計画していたが、今年度の受講者は0であった。

子どもと自然環境というゼミナールは多くの自然体験を経験することで自然への親しみを持ってもらうゼミである。多くの自然体験を経験し満足しているが、もっと積極的に取り組ませる必要性を感じている。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

幼児教育に必要な自然体験や自然遊びを多くすることでアクティブラーニングの要素を多くしようと計画していた。特に、園児が大好きなドングリとダンゴムシについては多くの時間を取り体験させたいと考えていた。

経験させる自然体験は例年通りであるが、14名という大所帯の全員を満足させるための工夫が必要である。大人数であることを生かして特別支援学校やゼミ発表会をより中身の濃いものにした。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

「ヒトと生物」の受講生がいなかったため開講していない。

例年通り、多くの自然体験を実施することができた。特に、今年度は報告書の作成がなくなったため、時間にゆとりができ、新たな自然体験（秋のドングリ遊び）も取り入れることができた。体験したことを発表する長崎特別支援学校でのカエルの授業やゼミ発表会も例年通りに実施できた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

開講していないので成果はないが、来年度は受講生を増やす努力が必要であると思う。

大人数でも例年以上の自然体験を経験させることができた。また、体験したことの発表の場である長崎特別支援学校でのカエルの授業やゼミ発表会も満足のいくものであった。課題としては、大人数であるため主体的に関わらず消極的な活動をする学生も見られたので、もう少し少人数でのゼミ活動にしたいと思う。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ヒトと生物	22Y	選択	0	75.3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22Y	必修	14	92.1	13	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
ヒトと生物	22Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

特記事項なし

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

ヒトと生物は開講できるように努力したい。

ゼミナールでは、自然体験で新たな取り組みを計画し学生の満足度をより高めていきたい。

令和 5 年度 後期	授業評価報告書	氏名	本村 弥寿子
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)			
<p>授業に対する満足度は高いものの、実際の評価が満足度に伴っていない。授業者が求める力を身に付けられるような授業方法の改善が課題である。</p>			
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)			
<p>1. <授業> ・「保育内容総論」「保育方法論」の成績でC評価が30%未満になるようにする。 ・授業評価アンケートにおいて、すべての科目で満足度80%以上を目指す。</p> <p>2. <学務> ・学生満足度80%以上、就職率100%を目指し、“保育を学ぶなら女子短”を浸透させる。 ・専任教員の確保に努め、安定した教育体制の構築を目指す。</p> <p>3. <研究> ・「カリキュラム論」での学習内容の検証を行い、授業内容改善に向けて研究を進める。</p>			
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)			
<p>1. <授業> ・レジュメの工夫、DVDの活用等により一層理解が進む授業方法を模索する。 ・「カリキュラム論」指導案作成の際、2年生からTAを募り、指導案作成のサポートを充実させる。 ・「保育実習指導」の内容の見直しを行い、学習したことが実習で活用できるようにする。 ・公開講座、地域での講演及び実践に積極的に取り組む。その際、学生の力を活かす内容で構成し、学生の学びが広がる機会となるようにする。</p> <p>2. <学務> ・学生との面談や学科会議において、授業や学校生活に対する学生の思いを探り、学習及び生活支援に活かす。また、就職に対する考えを探り、キャリア支援センターをはじめた教員と連携し、適切な支援を行う。 ・学長、事務局長との連携を密にし、本学科が必要とする教員の募集に早めに取り組む。さらに、各教員の専門性を尊重しながら、互いに連携しながら学務を遂行できるよう連絡や相談しやすい状況づくりに配慮する。</p> <p>3. <研究> ・実習における指導案作成に関するアンケートを実施し、「カリキュラム論」で力を入れるべき内容についての洗い出しを行う。</p>			
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に			
<p>1. 自己評価「S・A・B・C・D」 すべての授業に関してレジュメは高評価であった。また、保育方法論において実習前にDVD視聴を行ったところ、実習のイメージが湧いたとの意見があり好評であった。しかし授業者が求める理解につながっておらず、保育方法論、保育内容総論のC評価は共に52.3%・56.9%と目標にほど遠かった。満足度に関してはすべての科目で85%以上であった。カリキュラム論ではTAによる学修の具体的な方法を構築できなかった。保育実習指導に関して改善を進めているところである。今年度の評価がそろる5月に改善の効果の検証を行いたい。公開講座は、附属幼稚園の子育て支援活動と連携し、ゼミ生の活動の場も設けることができた。</p> <p>2. 自己評価「S・A・B・C・D」 学科会議を月2回行うことで教員間の情報共有を確実に行うようにした。また、学生からの要望に応じて面談を丁寧に行うことができた。その効果が、学生の満足度は80%越えの結果となった。さらに3月半ばに就職率が100%に達した。さらに、心理学、保健分野の教員の募集を年度初めからかけ、秋には採用が決まった。</p> <p>3. 自己評価「S・A・B・C・D」 22Y生へのアンケートの結果、カリキュラム論での学びは学外実習で大いに役立っていると捉えられた。課題の数についても適切だと考える学生が98.7%であった。</p>			

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習Ⅱ	22Y	選択	85	79.1	13	15.5%	38	45.2%	20	23.8%	11	13.1%	0	0.0%	2	2.4%
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	22Y	選択	87	79.4	5	5.8%	41	47.7%	33	38.4%	7	8.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習（幼）	22Y	選択	86	82.3	34	40.0%	20	23.5%	15	17.6%	16	18.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22Y	必修	7	86.7	4	57.1%	1	14.3%	2	28.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
領域「環境」の指導法	23Y	選択	39	78.3	4	9.3%	24	55.8%	13	30.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
カリキュラム論	23Y	選択	68	77.5	7	9.7%	27	37.5%	29	40.3%	7	9.7%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
保育実習Ⅱ	22Y	*	*	*	*	*	*
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	22Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習（幼）	22Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*
領域「環境」の指導法	23Y	4.7	4.6	4.7	4.5	74.6分	4.7
カリキュラム論	23Y	4.7	4.7	4.7	4.6	102.0分	4.7
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

グループワークやフィールドワークを取り入れ、他者の考えを取り入れながら自分なりの保育を考えられるようにした。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1. 授業内容の理解のための方策を考え、B以上の評価が70%以上となるようにする。
2. 教員間の連携を密にとり、学科教員全体で学生を支える体制を強化する。
3. 降園前の保育と子どもの育ちについて実践記録から関連性を探る。

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	山中 慶子
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

今年度より担当する「領域表現の指導法」では、講義、グループワーク、製作などを取り入れ、学生にとって領域表現の理解に効果的な授業構成を検討することが課題であった。
 「子どもの絵と製作Ⅰ」では、実習における幼児との造形活動をイメージしたり、具体的な活動計画を立てることができるスキルを養うことを課題とした。

選択科目のため、授業内容を事前に学生に詳細に伝えることで、意欲のある学生が履修していたと考えられる。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

「子どもの絵と製作Ⅰ」「子どもの絵と製作Ⅱ」を履修することにより、実習における幼児との造形活動をイメージしたり、具体的な活動計画を立てることができるスキルを養う。
 改善点は、前年同様、授業内容を事前に学生に詳細に伝えることで、受講者を増やすことである。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

前年同様、個人での製作とグループワークのバランスをとりながら、Ⅰ→Ⅱと段階を追って授業を進めていく。
 選択科目となったことにより、準備、片付けなどの時間が短縮された。意欲のある学生がより実践的な学びができるよう一つひとつの授業内容を精査していきたい

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

領域「表現」の指導法は、選択必修であったが全員が履修していた。授業内容を明確に示したことが良かったと考えられる。
 主に、前半講義、後半演習の内容であったが、次年度よりⅠ・Ⅱに分かれるため、講義の中にも演習を含めて行えるようにしていきたい。

「子どもの絵と製作Ⅰ」では、途中、施設実習が入るため、授業内容が分断されないような構成が課題である。

授業評価はどちらも高く、概ね学生の求める内容に沿ったものであったと考える。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育実習Ⅱ	22Y	選択	85	79.1	13	15.5%	38	45.2%	20	23.8%	11	13.1%	0	0.0%	2	2.4%
教育実習(事前・事後指導1単位含む)(幼)	22Y	選択	87	79.4	5	5.8%	41	47.7%	33	38.4%	7	8.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育・教職実践演習(幼)	22Y	選択	86	82.3	34	40.0%	20	23.5%	15	17.6%	16	18.8%	0	0.0%	0	0.0%
ゼミナール	22Y	必修	16	86.6	6	37.5%	10	62.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
領域「表現」の指導法	23Y	選択	68	81.4	17	23.6%	33	45.8%	18	25.0%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの絵と製作Ⅰ	23Y	選択	32	84.5	10	30.3%	19	57.6%	3	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育実習Ⅱ	22Y	*	*	*	*	*	*
教育実習（事前・事後指導1単位含む）（幼）	22Y	*	*	*	*	*	*
保育・教職実践演習（幼）	22Y	*	*	*	*	*	*
ゼミナール	22Y	*	*	*	*	*	*
領域「表現」の指導法	23Y	4.8	4.8	4.8	4.8	86.3分	4.8
子どもの絵と製作Ⅰ	23Y	4.9	4.9	4.9	4.9	59.0分	4.9
保育実習指導Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*
保育実習Ⅰ	23Y	*	*	*	*	*	*

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業の中では、グループディスカッション、グループ制作を取り入れている。
また、次の授業での内容を事前に伝えることで、自ら調べたり、材料を準備したりできるようにしている。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

領域「表現」の指導法は、Ⅰ・Ⅱに分かれるため、授業内容の構成を見直す必要がある。
講義と演習のバランスを図りながら進めていきたい。

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	秋山 寛治
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- 1) 栄養士に必要な運動生理学に関する知識を習得する。
- 2) 採用したテキストの内容を、できる限り漏れることが無いように、講義で解説する。
- 2) スポーツ栄養学の分野の中から、運動生理に関連する事柄を紹介する。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- 1) 採用したテキストの内容を、できる限り漏れることが無いように、講義で解説しようとしてしました。限られた時間内で、ある程度説明は出来たかと振り返ります。
- 2) 発展めざましいスポーツ栄養学の分野の中から、運動生理に関連する事柄の紹介を試みました。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

- 1) 講義の内容並びに量を伝える方法に問題がありました。講義が一方通行であり、学生からの質問を受け、そこから発展していく場を作り得ませんでした。また、口頭ではわかりづらいことばについては、なるべくスライド上に示すべきと考えていましたが、一枚のスライドに掲げる文字数が多過ぎてしまいました。学生に講義する経験があまりなかったため不安でしたが、8回の講義をやり終えることが出来ましたので、安堵しています。
- 2) 小テストの問題は簡単では無かったのですが、概ね良い成績でした。次年度も、同様の形式で出題する予定です。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
運動生理学	22S	選択	24	96.3	21	87.5%	2	8.3%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
運動生理学	22S	4.1	4.3	4.3	4.1	36.3分	4.2

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

特に実施せず。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

学生の理解を得るために工夫を重ねる。例えば、スライドの内容やレイアウト、講義中の声の出し方など、細かな事柄を含め検討したい。
 スポーツ栄養学の基礎と最新知見については、次年度もなるべく紹介したい。
 小テスト形式での評価は次年度も採用し、講義内容の理解の整理に役立てたい。

令和 5 年度 後期 授業評価報告書					氏名		池田 光彦									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>2022年度から従来よりも思考力を問うテストを設計した。その結果、2022年度よりも再試験対象者が増えたが、本試験で合格した層は、学習内容を十分に理解し、教育目標に到達したと判断できる。また、再試験対象者に対しても、知識の定着を意識した再試験内容にするなどのフォローを行った。授業外学修時間については、全体的に昨年度よりも増えていたことは評価できる。特に昨年度は1時間を超えて授業外学習に取り組んだ者は0%であったが、今年度は全体の約1/4の学生が1時間30分以上の授業外学修に取り組んでいた。しかしながら約40%の学生が授業外での学修に取り組んでいないので、次年度はその層の授業外学修を促す工夫を検討したい。その際に「質問9」の項目を参考にしたい。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>今年度の目標：再試験対象者をできるかぎり出さない。授業時間外の学修時間を適切に増やす。 改善計画：良い点は現状を維持しつつ、知識の定着が不十分である学生に対するフォローを適時行うとともに、各自の理解度に応じて適切に授業外の学修時間を確保する。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>ただ単に授業外で取り組む課題を課せば授業外学修時間は増えるがそれでは意味が無い。学生の主体的な学修を促すことが重要である。そこで、学生が主体的且つ自律的に学修へ向かう姿勢を醸成すること、並びに学修内容の興味喚起を目的として、他の科目及び栄養士実力認定試験との連関を意識した授業を展開した。具体的には、食品学Ⅰ、食品衛生学、食品加工学、調理学、生化学、基礎栄養学との連関を意識した。 授業期間中の自己点検として授業11回目(12/5)に「学生による授業改善アンケート」を実施し、得られた結果を踏まえて後半の授業改善に活用した。具体的には、Google Workspaceを活用し、授業の冒頭に前回授業の振り返りを行った。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>今年(2023年)度の学生による授業評価アンケートの結果も含めて2020年度～2023年度の4カ年の結果について検証したところ、「内容やレベル」4.5→4.5→4.3→4.7、「教員の教え方」4.6→4.5→4.7→4.6、「学生の学習意欲」4.3→4.1→4.3→4.4、「学生の理解度」4.5→4.2→4.4→4.3、「全体的な満足度」4.5→4.3→4.6→4.6であった。ポイントの増減は小数点以下であり、これは受講生全体の人数の多寡に影響されることが考えられるので、各質問項目ごとに前年度と今年度の結果を比較し検証を行った。まず、教員の授業運営について「内容やレベル」は「十分適当であった」と回答した者の割合が約10%増加し、「ほぼ適当であった」と回答した者を合わせると90%を越えていた。「教員の教え方」の満足度については大きな変化は無く「十分満足できた」「ある程度満足できた」と回答した者の合計は90%を越えていた。次に、学生の取り組みについては、「学修の取組」について「十分に取組んだ」「ある程度取組んだ」と回答した者の合計に大きな変化は無く80%を越えていた。「授業の理解度」について「十分理解できた」「ある程度理解できた」と回答した者の合計は増加しており90%を越えていた。「授業外学習時間」は前年度48.3分から今年度37.9分となっているが、授業冒頭の振り返りで復習ができていたため授業外学習時間が減ったとも解釈できる。この点は更なる検証が必要である。他方、授業評価アンケートにおける質問12「授業の感想・意見・要望」において「前回の講義に関しての振り返りの質問の様なものを取り入れていて、復習しながら講義に参加できた」「前回授業の復習問題を出して下さり、しっかりと復習できました」「授業前に前回の授業の復習をすることが良いと思いました」といった定性データが得られたことは良い点(成果)であったと考える。一方で、再試験対象者があったので、次年度引き続き、再試験対象者をできるかぎり出さないよう努めたい。</p>																
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
食品学Ⅱ(食品の機能)	23S	選択	33	76.5	4	12.1%	12	36.4%	7	21.2%	10	30.3%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
食品学Ⅱ(食品の機能)	23S	4.7	4.6	4.4	4.3	37.9分	4.6									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニング（以下ALと略記）は「具体的・直接的コミュニケーション」であると捉えており、手法にこだわるのではなく、学生と教員間で具体的・直接的コミュニケーションがなされているのであれば全てそれはALであると考えている。担当授業では、常に双方向型（学生⇄教員）の展開を意識して授業を実施した。そのことによって、学生の理解度などを常にチェックしながら授業の進行ができた。オフィスアワーは実施していない。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次年度の目標・改善計画

- ①授業の質を維持するとともに質の向上を試みる
- ②授業外における自律的且つ主体的学修を促す仕組みをつくる

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	井上 靖久
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度は、以前より単に知識を押し付けるのではなく、理解重視の指導を行ってきた。しかし、理解を重視するために基本的な人体の構造と機能についての授業が却って疎かになっていたのではないかという危惧が埋めれてきた。そこで、人体の構造および人体の機能を基礎的なところからじっくり講義することに重点を置いた。しかし、結果的に人体の構造と機能の関連を示す余裕がなくなってしまうように思う。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

、人体の構造および人体の機能を基礎的なところからじっくり講義することに重点を置きつつ、さらに人体の構造と機能の関連を示す工夫と関連の重要性の強調を例を挙げて行う。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

今年度は人体の各臓器・器官についての構造と関連よりも、各系統ごとの関連と機能の連携を例を挙げながら授業を進めたい。そのことから健康の維持の重要性と困難な、さらには自分自身の体のみならず家族などの周囲の健康にも理解する態度を身に付けてほしい。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

健康の維持についてはある程度論理的に理解しようとすることの重要性がとたわったと思われるが、健康の維持から進んで、疾病の発生についても興味を抱いてもらいたい。健康維持と疾病発生の過渡の移り変わりの重要性も理解させることを今後の課題としたい。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
解剖生理学	23S	選択	33	73.9	3	9.1%	8	24.2%	11	33.3%	11	33.3%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
解剖生理学	23S	4.5	4.4	4.4	3.9	51.2分	4.3

*...学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

重要なテーマについては、各自自分の言葉で説明できるように各人が独自のノートとしてまとめるように指示、確認をした。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

学生にとっては難解な科目であり、また重要でもあるが、時間的制約もある。網羅的ではなく何に重点を置くかを探り続けたい。

令和 5 年度 後期 授業評価報告書					氏名		太田 久美子									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>昨年度は、一昨年度に比べ、S評価、A評価及びB評価がそれぞれ増え、C評価の学生数が減少したものの、定期試験の問題を例年より容易にしたこと等もあり、学生の理解度が例年よりも増したと安易に言うことはできないことや、講義中積極的に発言等を行っていない学生であっても良好な成績をおさめているため、講義中の学生の反応と理解度とは比例しないものと考えざるを得ないことなどから、学生の理解度をどのようにして推し量るべきか、悩ましいという所感であった。</p> <p>また、アンケート結果については、数値自体は平均値を下回るものがないものの、「早口」という感想が多かったため、さらに工夫を重ねることとしていた。</p> <p>以上より、昨年度の授業評価報告書では、今年度の授業方針につき、基本的な方針はそのまましつつ、より学生にわかりやすい講義を心がけることを課題にあげていた。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>(1) 日本国憲法や法律に関心をもち、身近なものとして意欲的に学習することを促す。</p> <p>(2) 日本国憲法の意義・概要について学び、市民として必要な日本国憲法に関する基本的理解を修得する。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>(1) 昨年度同様、基本的には、毎回、講義の際にレジュメを配布し、講義形式で授業を進めた。</p> <p>もっとも、事前課題を課し、その内容を発表してもらったり、なるべく学生への問いかけを多くして、学生自身に考えてもらう機会を設けるよう工夫した。</p> <p>また、初回授業では、日本国憲法についてのイメージをもってもらいやすいよう、パワーポイントを利用した説明なども取り入れた。</p> <p>第2回以降も、できる限り、具体的で身近な事例を挙げて説明し、より理解してもらいやすくなるよう努めた。</p> <p>(2) 日本国憲法の問題について興味を持って考えてもらうため、関連する映画を観てもらおう等工夫した。</p> <p>もっとも、講義日程の都合や、各項目の説明に割く時間との割合等に鑑み、映画の本数は、昨年度同様、2本のままとした。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>成績分布をみると、昨年同様、S評価、A評価及びB評価を合わせて7割を超え、C評価の学生数が減少しており、一見すると非常に喜ばしい結果となっている。もっとも、定期試験の問題は昨年同様、例年より容易なものであり、内容にかかわらず基礎点等も与えていることなどから、学生の理解度が例年よりも増したと安易に言うことはできない。</p> <p>講義中の学生の反応は、積極的な学生とそうでない学生とで大幅に違いがあったように感じている。しかし、講義中積極的に発言等を行っていない学生であっても良好な成績をおさめているため、講義中の学生の反応と理解度とは比例しないものと考えざるを得ず、やはり、学生の理解度をどのようにして推し量るべきか、悩ましいと感じている。</p> <p>アンケート結果については、例年よりも「難しいがわかりやすかった」という声はずいぶん増えており、具体例を挙げた説明が功を奏したものと感じている。他方で、「早口」という感想も見受けられたため、次年度以降、さらに工夫を重ねる所存である。</p>																
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本国憲法	22S	選択	0	73.9	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本国憲法(2年次開講)	22L	選択	0	73.9	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本国憲法	22Y	選択	86	75.0	6	7.1%	23	27.1%	32	37.6%	24	28.2%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
日本国憲法	22S	*	*	*	*	*	*									
日本国憲法(2年次開講)	22L	*	*	*	*	*	*									
日本国憲法	22Y	3.7	3.6	3.9	3.5	62.1分	3.6									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義後にオフィスアワーを設けており、講義内容に関する質問を受ける機会も複数あった。
ただし、積極的に質問してくれる学生は少なかったように思う。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次年度も引き続き、以下を目標として、具体的な例を挙げながら講義を行うことを目指す。

- (1) 日本国憲法や法律に関心をもち、身近なものとして意欲的に学習することを促す。
 - (2) 日本国憲法の意義・概要について学び、市民として必要な日本国憲法に関する基本的理解を修得する。
- また、早口にならないよう、できる限り気を配る予定である。

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	大町 福美
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

コロナウイルスへの対応も緩和し、座席が自由になったことで、適度な距離感とコミュニケーションの取り方が課題であった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

授業内の聴くとき、見るとき、話し合うとき、活動するときのメリハリをつける。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

一定の距離を保ちつつ自由に着席。歌唱はしない。華道教授の生け込みを少人数ずつ間近で拝見し、技を感じる。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

少人数になったことで、より間近で生け込みを見ることが可能となった。生け花が難しいものではなく、より身近にできるものだと感じて頂けたと思う。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本文化概論	22S	選択	4	89.8	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本文化概論	23L	選択	12	88.0	4	33.3%	8	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
日本文化概論	22S	4.8	4.8	5.0	4.5	7.5分	4.8
日本文化概論	23L	4.6	4.6	4.5	4.5	32.7分	4.6

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実技(自由化生け込み)の際に友人と学び合い、教え合い、高め合う姿が見られた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

欠席後のフォローを忘れないようにしていきたい。実技をより充実させるための授業展開を図りたい。

令和 5 年度 後期 授業評価報告書	氏名	尾崎 好子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前回の医療事務論でも受講頂いた学生さんはみなさん資格取得の意欲にあふれ、積極的に講義を受けて下さる方ばかりでおおむね理解を深め、資格も取得された方ばかりなので今回も同じように、誰一人とりこぼす事なく単位を取得し医療管理秘書士能力認定試験に合格し、医療秘書、医療事務の仕事に携わる技術者として活躍ができる能力を身に付けて頂く講義を心がけました。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- (1) 理解度を確認しながら丁寧に講義を進行する。
- (2) 資格取得を希望する受講生が全員合格できる難易度で講義を行う。
- (3) 講義を振り返る際に分かりやすい板書を心がける。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- (1) テキストに沿って診療報酬明細書の書き方について説明する。
- (2) 練習問題を各自で解き、解説を行う形式で授業を進める。
- (3) 一人ひとりの答案を確認し、受講生から頂いた質問は全体にフィードバックし、その都度説明を行う。
- (4) 受講生が自分で考え自分で課題と向き合う時間を取り、解説の時間には質問を受け付ける時間を設ける。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

全員が素晴らしい成績を修められ、高い満足度を示して頂きましたので良い講義が行えたかと思えます。集中講義という一日にたくさんの講義を連続で行う大変な日程を、1人1人が真摯に取り組まれた結果かと思いません。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
医療事務論	23L	選択	7	100.0	7	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
医療事務論	23L	4.5	4.5	4.6	4.5	52.5分	4.5

*...学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

全体の理解度把握のため質問の時間を区切りごとに取りました。質問を頂いたら受講生全員に共通理解できるようフィードバックを行いました。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

次回も全員がSを取れるような講義を目指して講義資料を工夫し学生さん一人ひとりに向き合った講義を行いたいと思えます。

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書					氏名		北山 千代子									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
授業評価アンケートでは、書くことが楽しくできたとか上達したと回答しており、成果をあげることが出来た。添削もすぐに返却して注意事項も書いて、技術的にも向上させることが出来たと思う。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) 今年度も就職の為に履歴書の書き方、生活書(のし袋・年賀状等)が自信を持って書けるよう指導していきたい。 (2) 提出物が遅い生徒の為に、中間提出を義務づけたのは効果があったので今年も継続したい。改善点は時間数減少の為に、量より質の授業(プリント)を工夫してやりたい。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
(1) 課題プリント等学生が学びやすいようアドバイスを細かく記載し、添削を丁寧に向上心・意欲を持たせるよう工夫した。 (2) 今の学生は「書く」機会が少ないので、天声人語の書き写し(文章の構築・漢字の使用法)文字に関する知識・ペン・筆ペンでの練習で「書く」ことを心がかせた。俳句と筆ペンで短冊に書き記念品とした。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
・学生による授業アンケートの結果は本当に驚いた。余りある評価で一生懸命ついてきてくれた生徒にこちらが感謝の気持ちを伝えたいくらいです。悪筆や癖字だった学生にはかなり注意をしたので評価は低いと思っていたが、良くなったと思ってくれて嬉しかった。 ・今年度も創意工夫をして学生達が文字を書くことに積極的に取り組み、上達するように対応していきたい。																
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評 価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生活と書	22S	選択	9	78.6	1	11.1%	3	33.3%	5	55.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
生活と書(2年次開講)	22L	選択	10	87.7	5	50.0%	5	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
生活と書	22S	4.8	4.9	4.8	4.8	63.3分	4.7									
生活と書(2年次開講)	22L	5.0	5.0	5.0	5.0	87.0分	5.0									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
・最後の授業の時、卒業記念として学生自身が俳句を考え、全員分その手本を書いてあげて、短冊に清書してもらい、雅印を押してあげた。文字が上手になったと喜んでいました。 ・短冊に俳句を書く体裁とかの対話をした。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) なるべく丁寧に添削をし、褒めて書くことの楽しさを教示したい。 (2) 提出物の締め切りを2回に分けて、遅延が少なくなるよう対応を工夫したい。 (3) 時間数が少なくなるので、効率化をはかりたい。																

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	久林 康子
---------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

学生の苦手とする分野(例:敬語)などについては、必ず振り返りの時間を確保しながら重点的に指導を行った。その結果、理解度も高まり日常生活での敬語の使用について自信が持てたと感じる。しかし、コロナ禍にあり、授業に参加できない学生もいて全員がそろう時間が十分とれなかった。そのため、指導計画に修正を加えながら、休んだ学生が困らないように個別指導も行ったが十分とは言えなかった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・学生の実態や課題を十分に把握しながら、どのような力をつけていくか考えながら講義に使用する資料やワークシート類の工夫をする。
- ・学ぶ意欲の低い学生や配慮を要する学生への対応をきめ細やかにいき、クラス全体のレベルアップを図る。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・日本語の正しい表現方法を意見文、依頼文等の作成をとおして育成し、語彙力をつけるための小テストなどを随時取り入れた。
- ・プレゼンテーションによる発表の機会を設け、人前でも臆することなく自己表現ができる機会を多く設けた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度の学生は、1名を除き出席率も高く、授業態度も良好であった。そのため、指導計画にそって進めることができ、一人ひとりの達成度も確認することができた。課題に対しても真面目に取り組み、提出もほぼ100%に近く、まとまりのあるクラスで、相互に助け合ったり相談する場面が数多く見られた。課題としては、学生の感想にあった「敬語」の指導で秘書の授業とは異なることを指導され混乱したとあったので、他の先生方とのすり合せも必要と感じた。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本語表現	23L	必修	19	82.3	5	26.3%	8	42.1%	5	26.3%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
日本語表現	23L	4.6	4.7	4.7	4.7	86.8分	4.7

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

プレゼンテーションのテーマ設定や作成までの作業時には、学生の考えを尊重しながら適宜指導を行った。また、大学図書館や公立図書館の積極的な利用を促し、インターネットだけの情報収集に偏らないように指導を加えた。また、読書の有用性にもふれ、読書週間期間中は、できるだけ読書の時間を確保するように指導を行った。そして、学生からそれぞれお薦めの本を紹介させ、同世代の仲間がどのような本に興味があるかを知る機会を設けた。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

次年度授業科目の担当なし

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	堺 蘭
---------------------	----	-----

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

学生達の勉強する意欲を強く感じた。毎回の日常実用会話を繰り返し練習しながら、基礎文法の理解も良くなった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

学生達の希望に応じて、より実用的な会話と中国語の特徴等を中心として進みたい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

毎回テキストをできるだけ活用しながら、会話力を向上させたい。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今まで通りに、学生達の勉強する意欲を大事にしながら、できるかぎり会話力をより向上させたい。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
中国語 II	23S	選択	1	97.0	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
中国語 II	23L	選択	3	96.3	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象 学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
中国語 II	23S	4.0	4.0	4.0	4.0		4.0
中国語 II	23L	4.7	4.7	4.7	4.7	40.0分	4.7

*...学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

令和 5 年度 後期 授業評価報告書	氏名	沢 みつ子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

1) 自宅での学習がインターネットに頼りがちなことなので、自ら学び、自分や他の人との現在の関係に問題意識をもてる姿勢を育てること。
 2) コロナ禍であっても、討議や他人の意見を聴く実習の実施。 ▪

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

1) 幅広い分野の事例の紹介による顧客心理の学習をし、心遣いやサービス精神を意識させる。
 2) 知識だけでなく、実際の行動体験を通し、学生の気付きを促す機会を増やす。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

1) 実例を用いて、ホスピタリティとマナーについての考察を促した。
 2) ホテルヒルトン長崎で、服装、受付、テーブルマナー、学外での挨拶の実習をした。
 3) 映画「マイ・フェア・レディ」は課題ととらえられるところを選んで鑑賞、講義に結び付けた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①学生による授業評価の結果、授業に抵抗があり、内容を受け入れ難い学生1名の存在が分かった。強い不満を持っている学生を問題視していなかったのがいけなかった。②学生全体は関心度が高く、課題に積極的に取り組み、質問するなど、積極的だった。提出されたレポートの内容からも、今年度とりあげた課題は適切で良かったと思う。③試験前の学習をあまりしていないようなので、知識の習得も今年度の課題とする。④前年度と同様にコロナやインフルエンザの対策でグループワークや討議を避けがちであったので、グループワークの実施が課題である。長期提出課題で学生とおしで相談する機会を作ったが、今年度もテーマを変えてこのような取り組みをしたい。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
マナーとホスピタリティ	23L	必修	19	78.9	2	10.5%	8	42.1%	7	36.8%	2	10.5%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
マナーとホスピタリティ	23L	3.8	3.6	4.4	4.2	78.9分	3.8

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

①ホスピタリティ、マナーについて、タイムリーな実例を用いて講話とする
 改善点：価値観の違いで反発した学生がいたことが分かったので、まず、事例について学生の感じ方を確認する。
 ②知識の習得を促す
 改善点：豆テスト実施
 ③グループワークによる体験、マナーの実習、思いやりや配慮を促す。

令和 5 年度 後期 授業評価報告書	氏名	七條 和子
--------------------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

前年度は成績分布、授業評価アンケートなどを参考にすると、1) 病理学では、今年度は学生の意欲や理解度が上がった。単元を絞って教えることが学生にはいい結果となっている。2) 薬学(薬理)基礎については健康を重視する社会情勢とコロナワクチンを始めとする薬学についての関心の高さが授業に対する興味つながっている。課題としては、学生の講義内容についてのレベルに個人差があるので更に改善が必要である。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

今年度の目標・改善計画は、1) 病理学では、単元を減らしてまとめたわかりやすい言葉を使用して授業を行い、質問しやすい場を作る。2) 薬学(薬理)基礎については、講義内容の簡略化と理解を高めるための小テストの改善を行う。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

今年度の活動内容・方法
 1) 病理学の単元を一部減らしてまとめ授業を行った。さらに、身近な例を講義内容に加え質問をして興味が持てるようにした。
 2) 薬学(薬理)基礎の単元を絞って授業を行った。身近な例を講義内容に組み込み理解度を増すよう話した。今回は集中講義だったので、小テストの代わりに授業の終わりに学んだこと、質問事項などを書いた紙を提出してもらって、次の授業で回答した。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度の成績課題としては、集中講義のため難しい点もあったが、成績分布、授業評価アンケートなどを参考にすると
 1) 病理学では、今年度は学生の意欲や理解度、単元を絞って教えることがいい結果となった。さらに内容を深めたい。
 2) 薬学(薬理)基礎については、引き続き健康を重視する社会情勢とコロナワクチンを始めとする薬学についての関心が高く授業に対する興味につながっている。単元を追加して授業を行いたい。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
病理学	22S	選択	24	80.4	5	20.8%	8	33.3%	11	45.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
薬学(薬理)基礎	22L	選択	8	93.1	6	75.0%	1	12.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
病理学	22S	4.1	4.3	4.3	3.9	55.0分	4.1
薬学(薬理)基礎	22L	4.7	4.9	4.9	4.4	64.3分	4.7

*...学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングおよびオフィスアワーについては今年度は実施していないので取り入れて見る必要がある。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

次年度の目標・改善計画としては、
 1) 病理学では、単元を減らしてまとめたわかりやすい言葉を使用して授業を行い、さらに質問しやすい場を作る。
 2) 薬学(薬理)基礎については、講義内容の簡略化を行い、理解を高めるため、小テストの改善よりは質問事項などを書いた紙の提出を優先して行う。

令和 5 年度 後期 授業評価報告書					氏名		関口 良嗣									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>前年度S評価の生徒は23Sクラスにおいては1名であったが後期ではプラス2名の上昇が見られた。一方でLクラスは変わらず3名であった。22Y前期の学生の理解度の数値はそれなりの人数から計算された数字であるため23Yと比べ0.2ポイントの差がついたのは重く受けとめる。ただこちらは後期に0.3ポイント改善した。同時に23Yにおいても後期に0.1ポイント上昇した。満足度については22Yは0.3ポイント上昇した。就職先において、より英語能力が問われるLクラスにより好成績を取らせる提案・工夫が必要に思える。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) 隙間時間の有効活用の重要性を初日にレクチャーし、習慣化を図る																
(2) 単語から発音、例文の発声、ロールプレイによる模擬英会話を通し、より深い興味を持たせる																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>インターミッションの評判がよかったが、少し難しくなるGW明けくらいから実施を計画</p> <p>ほとんどの生徒は丸暗記で単語テストに臨んでいたようだが(そちらが楽なため)、場所法を強く提案する</p> <p>テスト中の机間巡回は冬場荷物が増えて通りづらくなったためやらなくなったが、緊張感を保つため続ける</p> <p>時短のため単語テスト中に目視で出席確認をしたが点呼スタイルに戻す</p> <p>スライドは度々見え方を確認していたが、見づらく思っていた生徒がいたため一行の文字数を減らし、かなりズームしても右端が切れないように工夫する</p> <p>単語テスト下部に設けた吹き出しスペースによる質問やコメントのコミュニケーションの評判はよかったが、1週間の大部分の時間をそれに費やすこととなったため、次年度は個々に決めさせた自己目標を毎回書かせたり、自己目標に対する先週の振り返り、反省点等を書くように促す</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>後期の英語ⅡはS・Lクラスにおいては合同授業であったが少人数ということもあったが、全体的な満足度に0.4ポイントの乖離が見られた。授業外学習時間から判断するに、Lクラスの真剣度を感じられ、当クラスの意見は重視するに値する。また当クラスの理解度についても他クラスの生徒よりも0.3ポイント低い事実は手厳しいが、英語習得に対する期待値が高かった現れと受けとめ、次年度授業への新たな創意工夫の必要性を感じた。とはいえ、アンケート結果を総じて見てみると大きなばらつきは認められず、全体的な満足度や意欲度など一定の評価ができる数値が出た。</p>																
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
英語	22Y	選択	86	74.2	7	8.2%	30	35.3%	30	35.3%	17	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
英語Ⅱ	23S	選択	8	85.6	3	37.5%	4	50.0%	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
英語Ⅱ	23L	選択	12	80.4	3	25.0%	4	33.3%	1	8.3%	4	33.3%	0	0.0%	0	0.0%
英語Ⅱ	23Y	選択	68	78.3	12	16.7%	32	44.4%	19	26.4%	7	9.7%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
英語	22Y	4.3	4.4	4.2	4.2	43.6分	4.3									
英語Ⅱ	23S	4.8	4.8	4.8	4.7	43.3分	4.6									
英語Ⅱ	23L	4.3	4.3	4.2	3.9	62.5分	4.2									
英語Ⅱ	23Y	4.4	4.4	4.4	4.2	30.0分	4.4									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実施なし

ただし、時間が合いそうな昼食時など進んで質問に来るように促し、実際に質問等を受け、モチベーションアップを試みた。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

単語と教科書の予習と復習の時間を確保することが習慣化できるようにサポートする。

全体的な満足度を更にアップできるように、よりていねいに、より分かりやすく説明する。

初日に説明した勉強法や約束事を定着するまで丁寧に指導する。

コツコツ勉強する力を体感させ、モチベーションアップにつなげる。

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	孫 承言
---------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

韓国語 I で学習したハングルと文法を応用してペアワークやグループワークで簡単な会話の練習を行う。教師は各ペアやグループの発音・表現等を確認し、韓国語で質疑応答を行いながら、読む力・話す力を向上させることが課題だった。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・韓国語の文字「ハングル」の読み書きを繰り返して練習した上で、会話に慣れる練習を積み重ねていく。
- ・ハングル検定5級とTOPIKの初級に合格できる能力を身に付ける。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ・文字カードを使って、ハングルの読み書きの練習を行う。
- ・ペアで会話の練習を行う。教師は発音・表現等の間違いを修正するほか、韓国語で質疑応答を行う。
- ・授業終了後、課題を提供し、学生の自主学習を促す。
- ・定期的に小テストを行い、読む力を評価する。
- ・提出された課題等は採点し、コメントを付して返却する。
- ・授業中に行う臨時テストは、解答の解説を行う。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今回のアンケートで、「韓国語は覚えることが多く、特に数字が難しかった」という声があった。その結果、数字の小テストの成績も基準に達しない受講者が多かったため、今後は復習をより徹底的に行ったり、ワークシートの課題を増やして、全員が数字の聞き取りが可能となるように努めたい。一方、「韓国語の会話が楽しかった」、「ペアで会話するのが楽しかった」、「韓国人と会話できてよかった」という声もあったので、授業中に頻繁にコミュニケーションを取ったり、ペアワーク、グループワークをもっと増やし、楽しく学習できるようにする。

科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
韓国語 II	23S	選択	2	88.0	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
韓国語 II	23L	選択	6	87.2	2	33.3%	4	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
韓国語 II	23S	5.0	5.0	5.0	5.0	60.0分	5.0
韓国語 II	23L	4.5	5.0	4.5	4.2	115.0分	4.5

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・授業終了後、文字や文法のワークシートの課題を提供（約10回）し、学生の自主学習を促している。提出された課題は採点し、添削して返却している。
- ・授業中及び終了後、単語や発音などの質問があり、単語の意味を説明したり、一緒に発音してみるなど、指導を行った。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ・復習を十分に行う。
- ・ペアワークやグループワークで簡単な会話の練習を行う時、教師は各ペアやグループの発音・表現等を確認し、間違いを修正するほか、韓国語で質疑応答を行う。
- ・レベルに合うワークシートを配布する。提出されたワークシートは添削して返す。
- ・ワークシートや小テストの解説を行い、直ちにフィードバックできるようにする。
- ・学習意欲の低い学生に対して、やや難易度を落とした復習課題を課する等の対応を取る。

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書					氏名		大安 貴佳子									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>これまで教員が講義内容を話し、学生はメモを取るという形がほとんどで、受け身的な場面が多かった。昨年度から少しずつ参加型の講義形式を増やし始め、学生が意欲的に講義を受講できるような体制にしていっていった。話すスピードや配布プリントの文字数、記入欄の広さなど、学生から頂いた意見を元に講義の進め方やプリントの修正も行い、講義への抵抗感を減らすことができたと思われる。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>(1) 学生が取り組んだ課題に対して、コメントをするだけでなく、他学生と共有し、意見を言い合う機会を設けることで、理解をより深められるようにする。 (2) 学生と積極的にコミュニケーションを図り、講義科目への興味を引き出せるようにする。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>講義内容をメモすることで手一杯になり、考えて話を聞くことができない、という状況にならないように、板書の時間・説明の時間・考察の時間をしれぞれとることを心がけた。そのように対応することで、話をしている最中に顔を上げて聴講する学生の姿が増えたようである。また学生自身の幼少期について振り返ってもらったり、これから妊娠出産育児を経験する未来について考えてもらったりすることで、「医学一般」「乳児保育 I」「子どもの健康と安全」が自分には関係のないもの、から、自分にも身近で有益な講義であることを理解してもらえるようにした。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>配布プリントの文字数を減らし、重要な項目が分かるように変更したところ、学生の理解度が上昇したようであった。子どもの健康と安全で取り組んだ保健だよりについて、学生間で互いに見せ合い工夫した点などを話し合う場を設けたことで、それぞれにヒントを得て今後に活かすきっかけとなったように思われる。座席周辺のみでの共有であったため、特に工夫がなされた保健だよりは全体に対して提示することでもっと意欲を引き出すことができたのではないかと思う。脈の取り方や傷の処置など実践的な場面では話をするだけでなくお互いに実施しあう機会があれば、知識と技術がより定着し現場に活かすことができると考えられるので、導入を検討していきたい。またクイズ形式などで学生に問いかけることで、考察する機会も増やしていきたい。</p>																
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
医学一般	23L	選択	15	90.1	11	73.3%	4	26.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
乳児保育 I	23Y	選択	68	82.9	21	29.2%	36	50.0%	13	18.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの健康と安全	23Y	選択	68	83.0	26	36.1%	34	47.2%	9	12.5%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度									
医学一般	23L	4.7	4.8	4.6	4.6	49.3分	4.9									
乳児保育 I	23Y	4.7	4.7	4.7	4.7	35.3分	4.7									
子どもの健康と安全	23Y	4.7	4.7	4.8	4.7	37.9分	4.7									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

医学一般：自分で選択した疾患についてのまとめ、発表、共有
乳児保育：心肺蘇生法、異物除去の方法について人形を用いた実践演習
子どもの健康と安全：保健だよりの作成、共有

オフィスアワーは設けなかったが、授業前後に積極的に声をかけてくれる学生が多く、その中で質問や疑問点を受け付けることができた。

6. 次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

- (1) 写真や動画資料をより多く取り入れ、イメージを持ちやすく講義に取り組みやすい資料作りに努める
- (2) 病気や身体について興味を持ち、医療への抵抗感を軽減できるようにする

乳児保育 I、子どもの健康と安全は次年度担当なし

令和 5 年度 後期 授業評価報告書					氏名	奈良 望										
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
<p>普段意識することが余りない、自分が生を受け日々生活をしている日本社会についてより客観的に理解することを目指した授業である。自らを知るために他者について学ぶことが大切であると気づくところから始まる授業である。</p>																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>現在政治的・社会的・文化的等で身近な存在である日米の歴史比較から授業を進めていくが、江戸時代が始まった時には植民地としてのアメリカさえ存在していなかったことに驚いてもらいたい。このことから日本が古い国であることが感じられるようになる。米国以外にも適当な比較の例を紹介していきたい。</p>																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
<p>例年ペーパーテストではなく課題によって評価をしている。今年度は自分で決めたテーマで二回発表してもらった。短大での課題としてプレゼンが増加しているためか、声の大きさ・話す速度等が上達しているように感じた。</p>																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
<p>上記のように課題を発表二回にしてみた。この変更の一番大きなメリットは全員の発表を全員で聞くことができる点にあると考える。個々のテーマの決め方や発表のパフォーマンスなど学生同士で影響を受けあうことになり、教師の指導以上に学生の気づきは大きいと感じる。</p>																
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
比較文化	22L	必修	17	80.0	1	5.9%	8	47.1%	8	47.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
比較文化	22L	4.3	4.2	4.4	4.4	50.6分	4.2									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
<p>一時間目であったせいか遅刻欠席者が通常よりも多かった。学生は授業後も他の授業があるためオフィスアワーの設定は難しかったがそのことが直接授業に影響することはなかったと思う。</p>																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
<p>この科目は昨年度で一応終了だと思うが、今後機会があれば日本文化、特に現代史に視点を置いた授業の再開を検討してもと思います。</p>																

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	南條 恵
---------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

学生自身による積極的な授業展開とならなかった。質問等はないが理解しているわけではなかったため、より丁寧な指導が求められていると感じた。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

分かりやすい資料の作成と、緩やかな進度の授業を心がけた。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

学生の意見を求め、肯定しながら授業に興味を示すような展開を心がけた。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

積極的な学びへの取り組みを促すのは難しかった。基本的な文章の書き方の指導までは手が回らず、レポートの評価に難しさを感じた。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子育て支援	22Y	選択	86	80.6	1	1.2%	55	64.7%	19	22.4%	10	11.8%	0	0.0%	0	0.0%
子ども家庭支援論	23Y	選択	68	67.4	8	11.1%	8	11.1%	10	13.9%	43	59.7%	0	0.0%	1	1.4%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
子育て支援	22Y	4.2	4.2	4.3	4.2	56.8分	4.2
子ども家庭支援論	23Y	4.2	4.0	4.5	4.1	32.1分	4.1

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

質問や感想などを求めてもあまり反応はなかった。グループワークのなかでは楽しそうに演習をおこなっている姿があったので、より実践的な授業の方が学びやすいのだと思う。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

なし

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書					氏名		西田 聖子									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
裏千家学校茶道 (初級) を参考に作成した資料を基に講義を行う。 茶道点前を学び、自身でお茶を点てられるようになる。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
講義は、毎回確認テストを行い、茶道の歴史・基礎知識・茶道のこころ等を学んだ。 茶道点前では、抹茶・主菓子・お干菓子を体験した。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
講義内容は、テストを行うことで授業時間外の取り組みに繋がったと思われる。 茶道点前では、抹茶・主菓子・お干菓子を「初めて飲んだ、初めて食べた」の声も聞かれ、よい経験ができたのではないだろうか。 学生のアンケートで、(コロナ、インフルが流行っているのに、同じ茶碗を使って衛生的にどうかと思う)があった。																
科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
日本文化概論	22S	選択	4	89.8	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医療事務総合演習	22L	選択	0	89.8	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
日本文化概論	23L	選択	12	88.0	4	33.3%	8	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度									
日本文化概論	22S	4.8	4.8	5.0	4.5	7.5分	4.8									
医療事務総合演習	22L	*	*	*	*	*	*									
日本文化概論	23L	4.6	4.6	4.5	4.5	32.7分	4.6									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
学生のアンケートで、(コロナ、インフルが流行っているのに、同じ茶碗を使って衛生的にどうかと思う)があった。もちろん使った茶碗は、各自洗面所で洗ってもらい次の人に回していたが、熱湯消毒またはアルコール消毒も検討したい(実際、普段は熱湯消毒を行っている)。新年度は教務課とも相談を行う。																

令和 5 年度 後 期 授業評価報告書	氏名	林 徹
---------------------	----	-----

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

特段の課題はありませんが、対面で実施できたことに感謝しています。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

シナリオ作りと発表では学生の自主性を重んじつつ助言し、対戦ではルールや交渉のヒントを巡回しながら与えること。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

シラバス通りに実施すること。グループ発表においてシナリオ作成と発表を学生が楽しめるように促すこと。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生の協力により、楽しく実施できたと思います。特段の課題はありません。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
経済学	22S	選択	0	88.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
経済学	22L	選択	17	96.8	16	94.1%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
経済学	22S	*	*	*	*	*	*
経済学	22L	4.6	4.7	4.7	4.4	45.0分	4.7

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

円滑なゲーム対戦に加えて、すべての学生が授業で学んだことを小演劇のシナリオにうまく盛り込み、元気に発表しあい、楽しく過ごせたと感じました。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

対面で実施できることを祈っています。

令和 5 年度 後期	授業評価報告書	氏名	春野 良三
------------	---------	----	-------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

授業で脱落者を出さぬことが目標の一つであったが、今年度は脱落者がいなくて良かったと思う。だがどうしても、時間が不足し検定にギリギリなので、もっと教え方に工夫をしたい。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ① 商工会議所簿記検定の受験者および合格者を多く出すこと。
- ② 時間不足を補うため課題などを有効に利用したい。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

- ① 本年度も、教科書を利用し講義を進めていきたい。
- ② 主要簿、補助簿の記入法や、財務諸表の記入法はプロゼクター等を使用し説明をしたい。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

授業アンケートの結果、学習意欲もあり、授業外学習頑張っていたようで良かったと思う。しかし学生がもっと理解できるよう工夫が必要であると思った。

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
簿記会計学2	23L	選択	5	75.0	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
簿記会計学2	23L	3.8	4.0	4.3	3.3	105.0分	3.8

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

特にありません。

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

- ① 簿記の基本をしっかり理解させ、検定合格者を出すこと。
- ② 授業での理解度を確保するうえで、課題を出し、チェックするとともに、小テストなどをたまに実施したい。

令和 5 年度 後期 授業評価報告書					氏名		宮崎 美保									
1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)																
昨年度の授業評価報告書では、実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考え、さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるような授業を行うことが課題にあがっていた。																
2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) 学生が興味を持ち、やってみたいと意欲的に取り組める課題の出し方を工夫する。 (2) グループ活動を増やし、協力してやる内容でコミュニケーションをとり、さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように導く。																
3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)																
(1) 実技科目活動内容をわかりやすく習得しやすくするために段階的項目をせっていた。さらに目標を各グループで決めて、目標達成するためにどうすればいいか工夫して活動するようにした。 授業の終わりに自己評価するようにさせた。 (2) 活動意欲が湧くような課題を出したり、特に苦手な実技科目に対して意欲の低い学生には、動きの分析をしてわかりやすい説明・実技指導をしながら、一緒に楽しみながら課題克服を目指した。																
4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に																
今年度は、生涯スポーツBと科目名が変わりシラバスの内容も変更した。意欲的に楽しみながら取り組む学生が多く、実技を見せながら説明したり、動きの分析をすることによりスムーズに課題克服し、習得できていた。グループ活動を増やした結果、学生同士のコミュニケーションも上手にとることができ互いに教え合いながら習得をしていく姿も見ら自ら工夫して活動できるようになった。学習記録で目標を決めさせることでより活動意欲高まり、授業終わりに活動の振り返りをし自己反省をすることで次の授業の意欲につながった。1人1人にコメントを書くことでより良いアドバイスをすることもでき、学生ともさらにコミュニケーションが取れるようになった。学生からの提案を授業の中に取り込むなどし、みんなでより良い活動が出来た。アダプテーションゲームを取り入れたことで運動が苦手な学生も試合で勝つことができたり、楽しめていた。授業改善・取り組みが少しずつ良い結果ができた。誰もがもっと楽しめる工夫をしたい。																
科目名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W(脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生涯スポーツB	23S	選択	23	77.0	5	21.7%	6	26.1%	10	43.5%	1	4.3%	0	0.0%	1	4.3%
生涯スポーツB	23L	選択	8	84.1	4	50.0%	1	12.5%	3	37.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学生による授業評価アンケートの結果																
科目名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度									
生涯スポーツB	23S	4.8	4.8	4.7	4.8	15.0分	4.7									
生涯スポーツB	23L	5.0	5.0	5.0	5.0	52.5分	5.0									
*…学生による授業評価アンケート実施対象外																
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況																
学習記録をチェックすることで上手くコミュニケーションが取れないで困っていることに気づき、実技中もその学生が所属するグループを気がけて声掛けをし活動を見守ることができた。 実技が上手くできない学生と一緒に練習して導くことができた。																
6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)																
(1) 学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行う。 (2) 意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。 (3) アダプテーションゲームを取り入れて実技をもっと楽しめるようにする。																

令和 5 年度 後期 授業評価報告書	氏名	吉井 学
--------------------	----	------

1. 前年度の成果と課題 (CHECK: 検証)

授業ごとに記載してもらったQ&Aの効果が見受けられた。今後も継続するとともにメール等による質疑応答の機会を効率よく実施する。 ▫

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

前年度実施したQ&Aの効果を踏まえて継続することでさらなる効果を期待できるようにする。

3. 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行)

生化学では話すスピードを遅くし、質問を促す講義を行う。
 メールによる質問はいつでも受け付けるようにして学習機会を促す。
 生化学実験では興味と疑問を促し、実験による証明方法を教授する。さらに、レポートの書き方を丁寧に教えることで社会での報告書等が書けるようにする。 ▫

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

生化学では話すスピードを遅くする。質問はいつでも受けるようにするとしていたことは実施できた。
 毎回の授業において学生の理解度を改善する目的で講義の内容について質問や聞き取れなかった事柄について質問票を記載してもらい回収後、次回の授業で詳しい説明を行うように改善する。については実施した。
 課題として残ったことは生化学及び生化学実験はヒトの体に関する事柄がほとんどであるにもかかわらず学生の興味が希薄であった。 ▫

科目名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	評 価											
					S		A		B		C		F		W (脱落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生化学実験	22S	選択	24	83.8	11	45.8%	4	16.7%	5	20.8%	4	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
生化学 I	23S	必修	33	67.8	4	12.1%	2	6.1%	4	12.1%	23	69.7%	0	0.0%	0	0.0%

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
生化学実験	22S	4.3	4.3	4.4	4.1	117.5分	4.4
生化学 I	23S	3.8	3.8	4.2	3.4	82.1分	3.8

*…学生による授業評価アンケート実施対象外

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

メールを利用した質問に対して即刻返答することで学習意欲を高めるようにした。 ▫

6. 次年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画)

生化学では話すスピードを遅くし、質問を促す講義を行う。 ヒトの体に関する興味を持たせる。
 メールによる質問はいつでも受け付けるようにして学習機会を促す。
 生化学実験では興味と疑問を促し、実験による証明方法を教授する。さらに、レポートの書き方を丁寧に教えることで社会での報告書等が書けるようにする。 ▫